# 女學雜誌

## 第二百四號目次


社説　政治上の道德
論説　日本に於ける婦人問題○聖經女權
批評　小説群芳第二―評(雲峯子、漁山人)○日本評論○染色雜誌
雜録　アッケルマン孃の演説○おみなへし○小説病○懸賞答文○和歌の浦波(池袋清風)○男女生徒の神經衰弱○赤兒の寢室○安眠の時間○女流小説家の答書○きよめぬ庭
小説　浮世の波間
寄書　日本新聞記者に望む(白川漁夫)○寒さ○孤島の四人
開書　有樂堂主人にまいらす○交詢讀賣新聞の應答○日本新聞に望む○少年矯風軍○閨秀二女史逝く○
時事　女流の演説○廢娼記事
女報　行啓○松方伯の家庭敎育○赤十字社病院○女子演説○產婆○女子獨立女學校○婦人矯風會風俗部○十三の產婆○東京女子聖書學館


Man's love is of man's life a thing apart, 'tis woman's whole existence.—Byron.


鈴木弘恭大人述
**百人一首講義** 新版
百家の小傳、百首の意味を、極く分り易く、面白く、講述し、特にテニハの解を精くして、和學獨學に便よりよくし、別に歌よみ方一篇を附録にして、獨り歌を詠むの力を敎ゆ、机上に置けば雅美にして無二の良友となる、遺ひ物にせば鮮麗にして此上なき良品となるべし。
上製美本定價五十錢郵税六錢
並製單裝定價卅五錢郵税四錢
(枚數同じく百九十葉中本)。

日本著名閨秀才
**女流小説家答** 預告
近時の小説文學は、甚だ心を注ぐべき憂ひの種となるなり、只だ淺薄なる考にて續々戯作を試み、此の神聖なる文學を只の遊戯三昧に弄ぶこそ無上の遺恨なれ、特に優淑なる女流が追々時好にまれして醜き筆を操ごるに至りては悲しきと幾千ぞ、吾社之を憂ひ方今著名なる先輩の女流小説家に請ひ、其小説に關はる經驗、持論、理想等を質問し、幸にして答を得たれば、次號より序を追ふて掲載すべし。


三月十五日發兌　第二百四號　一冊定價六錢



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

# The Woman's Magazine.

## (JOGAKU ZASSHI.)

No. 204. 15TH MARCH, 1890.



EDITORIAL:—Morality and Politics.

LEADING ARTICLES:—Woman's Question in Japan. The Bible and Woman's Suffrage.

CRITICAL NOTES:—"Kyoganoko" The "Nippon Hyoron." The Some-iro Zasshi.

MISCELLANEOUS:—Miss Ackerman's lecture. Ominaeshi: Novel Sickness. Prize Essays Waka no uranami (Ikebukuro Seifu). Nervous weakness of students, both male and female. Baby's Bed-room. House of sleep for women. Reply from a woman novelist. The Humorous.

NONEL:—Ukiyono Namima.

CONTRIBUTED ARTICLES:—One word to the Editor of the Nippon Shimbun. A Prisoner in a Solitary Island. Cold. Attention! Attention! An Inquiry.

OPEN LETTERS:—To Yurakudo shijin.

NOTES AND NEWS.

CONCERNING WOMEN.


第二百三號目次


社説　タイラード、レビット、アッケルマンの三女史○國秀大詩人

論説　當時の壯士○時勢に感あり

批評　新著百種第八號○新島襄君は基督教信者なりし乎○國民新聞の眞面目○彼の少年を如何んせん○ゆにてりあん○禁酒雜誌

雜録　獨逸國通信○懸賞答文○輿論必しも是ならず○上州紀行○其磧の手代氣質○貧乏の原因○きよめぬ庭

小説　浮世の波間(七)

寄書　婦人と文學の未來○ベルツ先生の存娼論○肥田野八重子の履歴○祖君の教へ秤の野へ○竹の一ふし

開書　天下同胞に訴ふ○突詢

時事　女學生の風聞と、日本、讀賣の二新聞○アッケルマン嬢○一陽來復、新聞、批評、小説、雜誌、廢娼記事

女報　皇女御對顏○東京養育院○岩村都子○ヒックス女史○櫻井女學校○婦人衛生會○竹村女史○男女共學の學校○女職工の協會○大學卒業女生會○大學女醫學生


## WOMEN IN JAPAN.

(1) *Her Imperial Majesty the Empress was pleased to pay a visit to the Nobles' Girl School on the 5th inst. Arriving at the school at 10.50 a.m. The Empress carefully inspected of the High School department in the morning, and in the afternoon after luncheon, the primary school department. Before Her Majesty had left school at 3.45 p.m., the pupils sung songs and played 'Koto' and Pianocs. Notwithstanding the blasting chilliness of the day, the Empress seemed very well and pleasant, and was pleased to give presents to every official and pupil of the school.*

(2) *On Saturday the 14th, a concert in behalf of the Joshi Dokuritsu Gakko will be given in the Rokumei-Kwan. The tickets are sold at the office of Jogaku Zasshi and few other places, as well as in the Rokumei-Kwan for one dollar each. The concert will commence at p.m.*

(3) *Lately, the editor of the Yomiuri Shimbun had a five time gossiping about the immodest behavior of girls in different Jo-Gakko; and when we expressed doubt concerning the truth of the same statement, the editor of the above paper declared in the the editorial column of the Yomiuri Shimbun of Sunday, the 2nd, that if we would know the names, ages and all other facts connected with the subject minutely, he would not mind telling us every thing plainly. Consequently this editor of the journal called upon the office of the Yomiuri Shimbun on Monday, the 3rd, demanding the promised informations; but the chief editor being absent then and so forth, we are unable to get any satisfactory information as yet for the editor of the Yomiuri.*

(4) *The Young Men's Association for the Abolition of Prostitution addressed a long affecting letter to every licensed prostitute in Tokyo urging her to change her present life for the better one. Some members of the same association called on the lodgings or houses of provincial Governors now at Tokyo.*

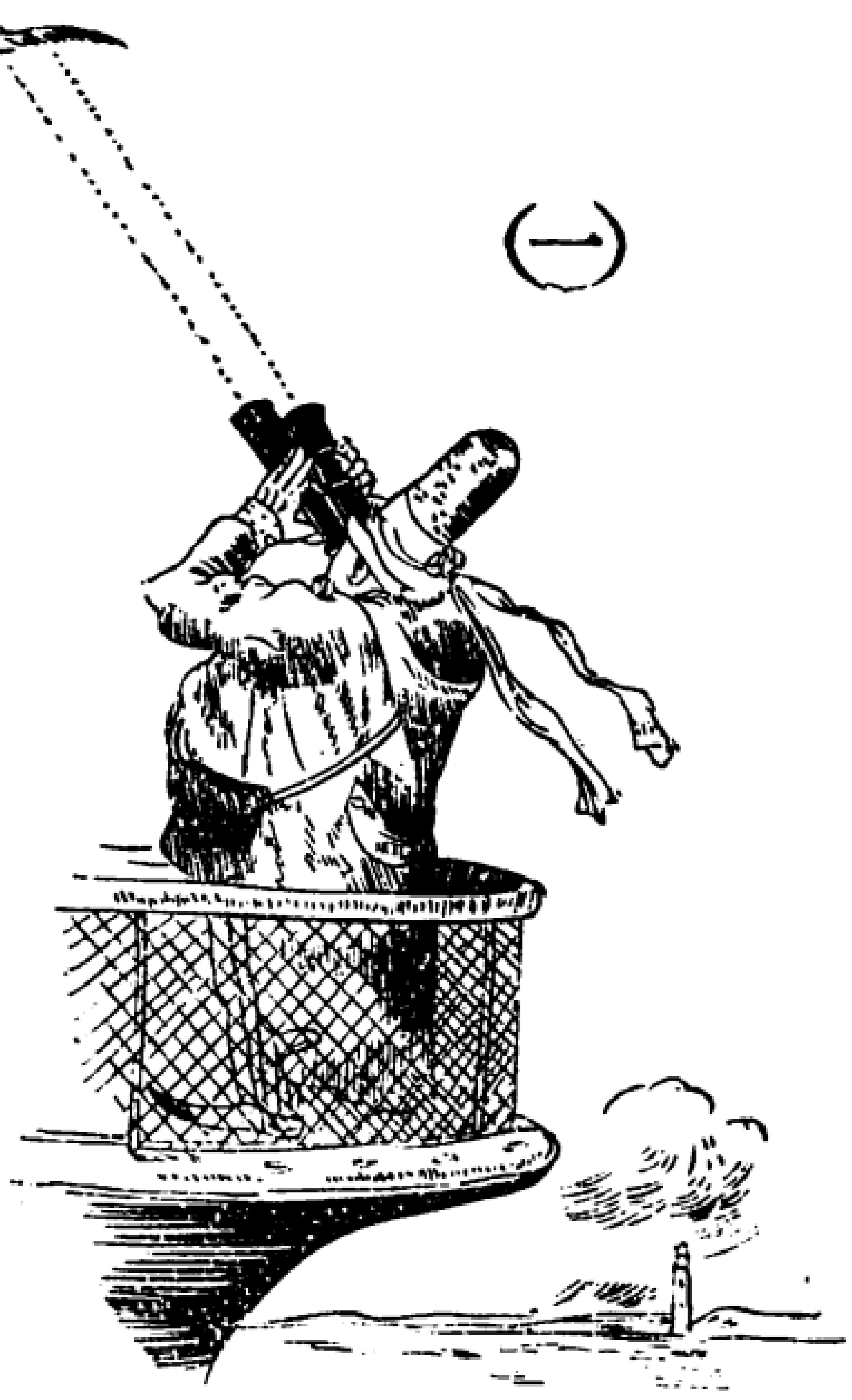
(5) *The Women's Temperance Union addressed letters to the all Ministers urging the need of abolition of prostitution.*


Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

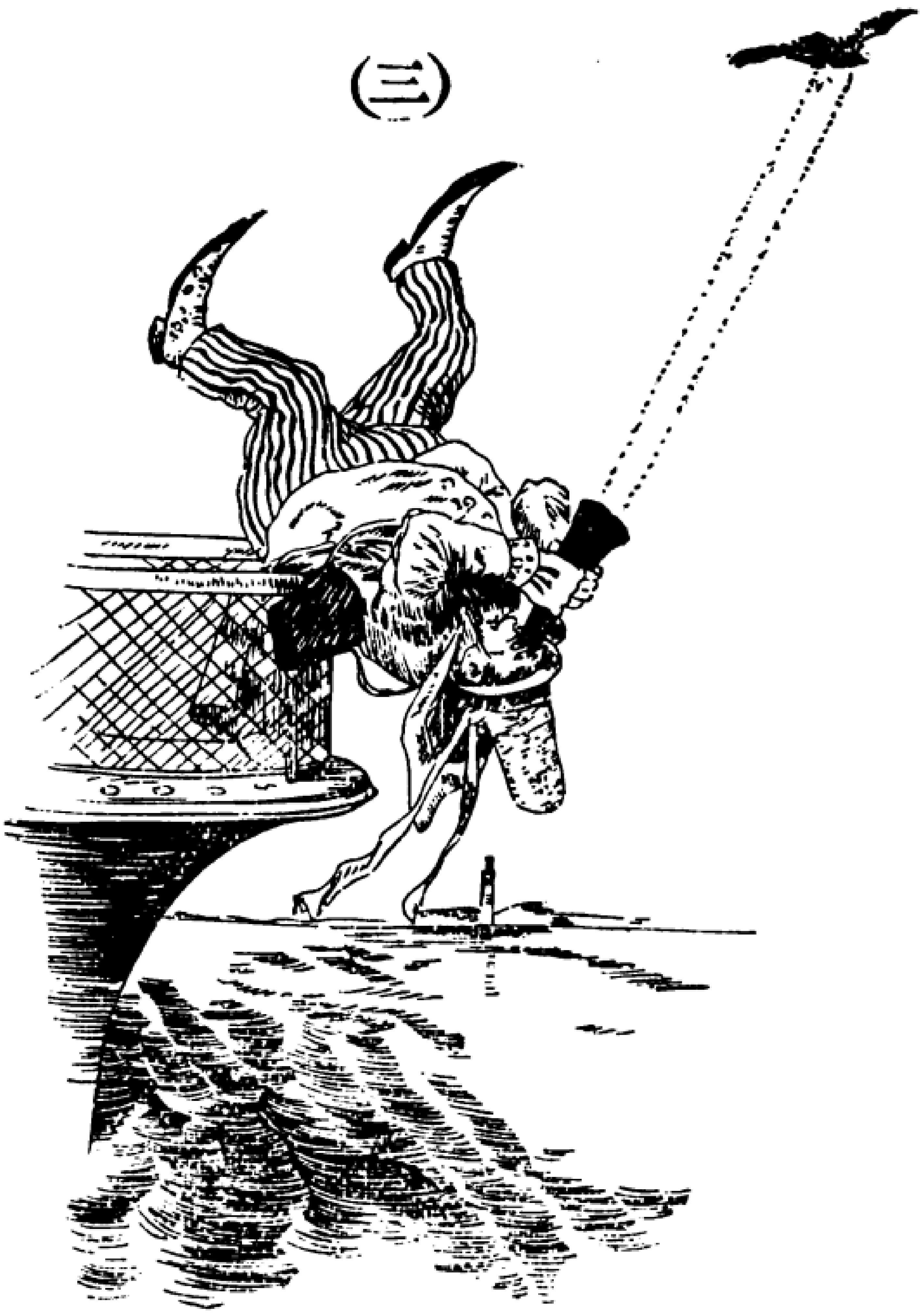
# 今日の學者

(一)

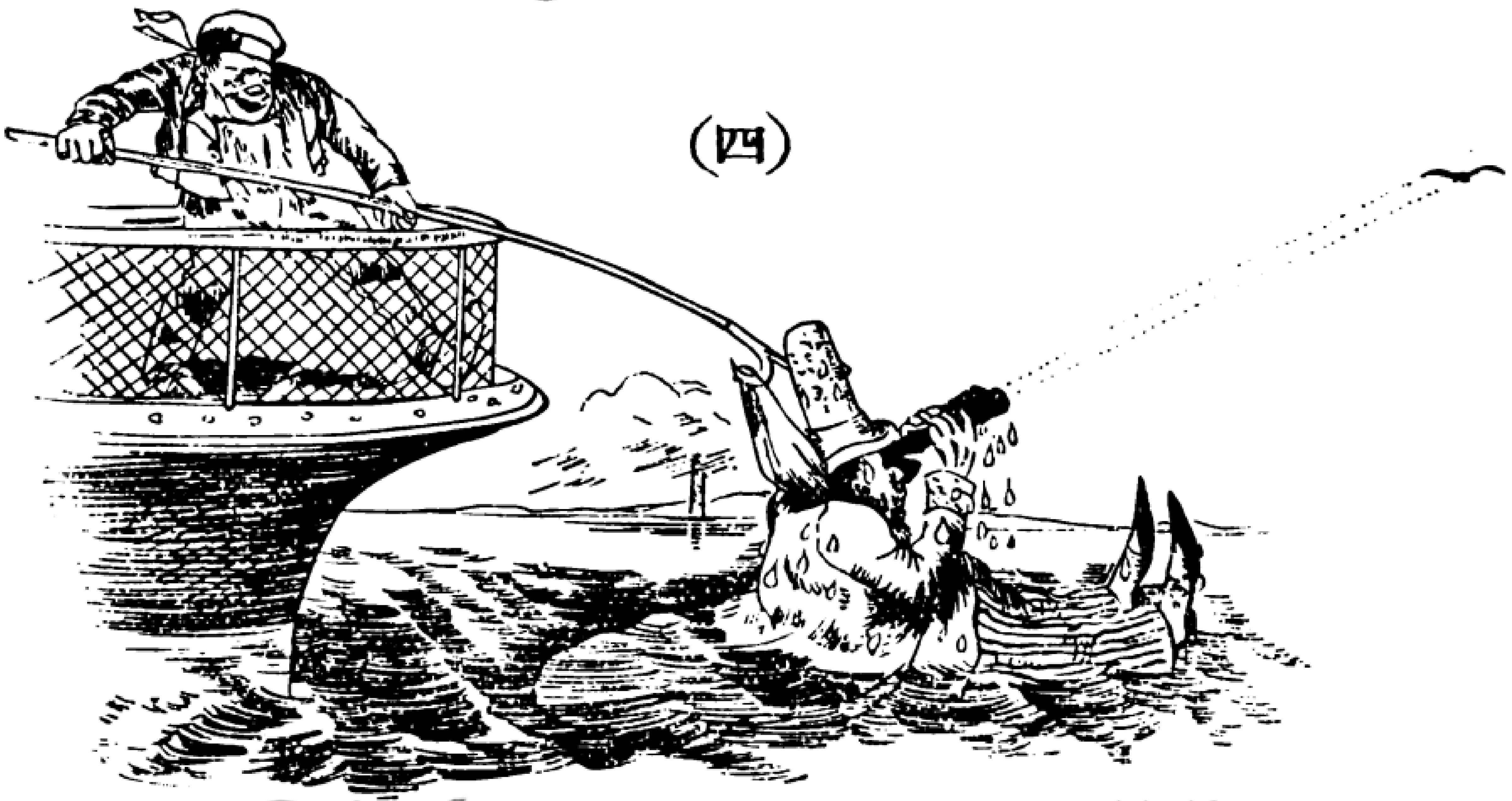


(二)

(三)



(四)



Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第二百四號
明治二十三年三月十五日發兌

# 社説

## 政治上の道德

廢娼論の勢威炎々として烈火の荒原を燒くに似たり、向ひ近づくもの眇々として微かなる中に於て、醫家の衞生上よりして之に反對するが如きは尙ほ見所ろなきにあらず、政治家が揚々として之を輕んじ、道德者は當に然あるべし吾等の責任は實際問題にありと云ふに至りては不明極めて憫れむべし、其冷々として之を無頓着に附し如此き社會改良の問題を目して毫も政治上に關係なしと辨說するに至りては暗愚いよ〱極まると云ふべし、 吾人政治上の道德に付きて一言する所ろなかる可らず。

夫れ政治とは如何なるものぞ、之れ大ひなる問題なり、堯舜よりマキヤベリーに至り、アブラハムよりスペンサーに至る迄で、識見論辨のさま〲なる指を屈むるに遑まあらず、然れども若し之を大別するときは、大率ね二つに歸せざるを得ず、云く敎育的の政治その一也、云く放任的の政治其二也、所云る敎育的の政治なるものは、政府國民の師父となりて之が誘導に盡力し、達德有仁の帝王上に居て民を感化し善に移らしむるのものとす、即はち堯、舜、禹、モーゼ、ダビデ、等の行へりし所ろ、孔、孟、プラト、アリストートル等の主張せし所ろなり、然るに彼のモンテスキウをすら慷歎せしめたる如く、如此き仁政の主義は時世と共に退却し、今や政治は唯だ國民の約束を履行するの一機關となり、國民に先だつものにあらずして國民に伴ふものとなり、之を導びくものにあらずして之に隨ふものとなり、スペンサーは政治は幾分か不道德の分子を含み、幾分か不自由の分子を含むと云ふに至り、マキヤベリーは、政治上に於ては些々たる道德に掛念す可きにあらず寧ろ大ひに之に無頓着なるべしと云ふに至り、政治は國民の師父にあらずして其番頭となり、更に番頭にあらずして其奴隷となるべしと云ふとあるに至る。 一に於ては之を敎育するなり、他に於ては之を放任するなり、一に於ては之を取締るあり、他に於ては之を引放つなり、二つの者抑そも何れか眞なる。

吾人は今ま之が斷案を下さず、試みに第二種の政治論に隨ひて彼の廢娼の問題を議せん、此政治論に隨ふときは、政府は特更らに國民の道德を高めんとを希圖するを要せず、然れど

も之が幸福を保護し其安寧を維持するの事は必らずや鋭意力を盡す所ろあかる可らず。假りに一例を擧ぐれば、個々の人民に向ひて、汝ち斯々の如く衣食せよ、又斯々の如く居住せよと命ずるとは政府之を敢て爲さゞるべしと云へども、玆に惡疫發生し忽ち蔓延流行して全國を毒するとあらんとするに際しては、政府にして如何に放任の主義を執ると云ふと云へども、必らずや嚴密に其取締を付け毒病の害大ひに行はるるを遮斷せざるとある可らず、之れ國民を保護するの任に於て必らずや爲さずんばある可らざるのもの也。然るに彼の娼妓を公許し姦淫を公認し爲めに男女間の惡德を自由に流行せしめて、其毒惡の人々個々の腦中に入り、家内に入り、夫妻親子の間に入り、而して其入る所ろ毎に恐るべき極惡の醜毒を齎らし行くに當りては、政府たるもの則はち之を顧みずして可ならんや、其の之を顧みざる倘或は可なり、寧しろ此惡毒の蔓延するに助勢し、一種の保護を與へて之を奬勵せんとするに至りては、政府たるもの其當然の職務に對し抑そも何の面目ありや。スペンサーすら云へり、道德の事は無形の生理（モーラル、フヒシチロヂー）の如し、一國の道德を維持するの處置は國家の藥劑（スチート、メヂスン）の如しと、而して政府は人民の肉躰の爲に衞生上の取締を爲すべしとせば、何の故に其靈躰上の生理の爲に同じく衞生上の取締を爲さずして可なるべきや。

夫の如此きは公許娼妓が社會に及ぼすの影響の幾干なるやを知らざるに由る、凡そ人其毒界に呼吸して久しく自ら其惡氣に感染するときは絶へて其惡毒の恐ろしきとを覺る者なし、然れども其の此如く恐ろしきものを恐れざる程に無感覺となりたるは其毒惡の無上極甚なるの證しなりとす、人よ汝ぢの良心を覺まし、汝ぢの純念を高め、謹嚴、つゝしみて姦淫公許の何如なるものなるやを熟慮せよ、害の及ぶ所ろ惡疫の流行よりも太甚しきを見るとを得べし。

且や社會の幸福安寧は社會の平權より來るものとす、然るに男女の不平權此如く大ひなるは、只だ國民を有の儘に保護すると云ふ政治論に於て、亦當に在まじきの處置にあらずや。吾人は政治上に於て男女間の不平權なるとを今特更に辨ずる者にあらず、只だ其道德上に於て平衡を失なふとの至りて大なるとを一論せざるを得ず、今の社會は女子に向つて聖賢たらんとを求め、男子に向つて禽獸たるとを認容せり、女子に對しては云く、宜しく貞節なるべし但し男を顧みると勿れ一

と度び嫁せば復た兩夫に見ゆ可らずと、而して男子に對しては云へり、汝ぢが放蕩は差支へなし、汝ぢが蓄妾は名譽なり、汝ぢが豪遊は英雄らしと、抑そも道德上に於て如此き大不平衡を存するとは果して不正にあらざる乎、其不正あるとは更に言ふを要せず、其の不都合にして無益なるとに至りては一層に明白ならんとす、夫れ道德上の制裁にして若し無益ならば之れ有りと云へども抑そも何の効かあらん。

人は云く、日本の女子は貞節ありと、吾人も亦た應じて云ふべし然り貞節なりと、然れども日本女子の實際に貞節なるは其眞正に貞節あるに非ず、彼等は實跡に於ては道德に富り、然れども道德上に於ては決して道德に富めるに非らずと云ふべし。其を何如にと云ふに、日本の女子は從來誘ひの風に當るとなく迷わしの手に觸るとなく、只だ家の中に閉ぢ込められて辛ふじて其操を維持したるなり、喩へば馬の如し、之を繫ぎて廐に閉ぢ、彼れ敢て走るとなしと云ふ豈に通論ならんや、若し之を廣野に放てば牝馬と云へども尙ほ奔るとあらん、如此く女子も自由に世界に立出でゝ隨意横行する時に於ては、昔し彼等に對して冷々たりし誘惑も今は反つて熱々たるとあらん、此時に當りて斷然善に就かば彼れ眞に貞節あるなり、不幸にして其惡に走らば之れ彼の墮落したるなり、而して如此き墮落の之れあるまじきと云ふとは、彼等が造物者と云へども尙ほ之を保證すると能わず。

然るに彼等が墮落すべしと云ふとに至りては吾人だも尙ほ能く保證するとを得る也、見よ今の世は姦淫の公許せられたる世にあらずや、男子の獸慾炎々として他を陷いれんとす、宛がら飢へたる狼の口を開き餌ばを食わんとするに異ならず、窈窕たる淑女、花の如き顔ばせを笑ませて優々春の如く一點無邪氣の温情を以て玆に來入す、彼等が彼の忌わしきものに誘惑せらるゝと定めて多くあるべし、嗚呼花落ち玉碎かる遣恨何ものか及ばん、然れども今の女子は即はち漸次此の境界に近づきつゝある也。

近來切りに女學生の醜聞を傳ふるものあり、吾人は其實を探ぐりて殆んど空をつかむが如きに一驚し、寍しろ之を祝するもの也。然りと云へども今日迄はたとひ此事なしとも明日より以後此事なしとは推斷すると能わず、否な吾人は寍しろ其或は之あらんとを察し、而して其時機の漸やく近づかんとするとを察して戰慄恐懼の念一と方ならざるもの也。嗚呼女子男子を誘ふに非ず、男子女子を惑わすなり、郎が一宵の惠み



Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

妾が百年を誤まる、都門幾多の輕薄男兒日夜玉の如き淑女を墮落せしめずと云ふとなし「嗚呼汝等何如に冷罵するか彼の娼妓あるは男子が之を在らしむるに非ずや」とは、トルストイ伯極愛の歎きなりとす、吾人亦つねに同情の歎あり。

夫れ今日迄では男子のみ不道德界に跋扈したり、然るに女子は之より自由に世界に立出で亦同じく其の誘惑境に侵入し來れり、今后其境界に於て惡を爲すの掛念あるものは則はち男女の兩性となれり、此迄は半身にて惡を爲したり、此后は全身にて惡を爲さんとす、此迄は隻手にて罪を侵せり、此后は双手を以て罪を侵さんとす、嗚呼日本大洪水の時機正に近づけり、大洪水の波響すでにひゞく。

此時に當りて政治家たるもの尙ほ冷々たるか、何如ほどに放任を主義とする政治論と云へども決して之を放任せよとは命ぜざるべし、無形上の生理に注意するとは其當に爲すべきの事あり、無形上の流行大疫を豫防するは其當に爲すべきの事なり、況んや豫防にあらず惡毒すでに全地に滿々たるに於てをや、此に至りて尙ほ冷々たらんとするか、汝ぢは抑そも何如なる政治論者なるぞ。」

夫れ政治を尤も冷淡に解釋すとも尙ほ此の廢娼問題に關はりて反對するとを得ず、若し更に一等高卓ある見識によりて之を辨ずるときは、凡そ眞の政治家あるものは決して如此き切要ある大問題を輕視すべきにあらず、苟くも國家眞大の幸福に注意するものは決して如此き大惡毒の橫逸するがまゝに放任すべきものにあらず。

一人の強きは其正しきにあり、一國の強きも亦た其正しきにあるあり、政治家にして若し一國民をして強大ならしめんとせば先づ之をして正しからしめずんばある可らず。ジョンブライト初めてボルミングハムの町會所に演說し、猛烈滔々、外交政略を非難するの末句に至りて言へらく、

夫れ道德の律法は一個人の性質の上に印刻さるゝのみあらず亦た一國民の上に印刻せらる、國民にして若し此律法を忽諸にせば窮極罰を逃るゝ所ろなし、其罰の來るや或は多年を要するとあり、時あつてか吾等の一生間に來らざるともあらん、然れども必らずや來るものにて決して免るゝ所なし、伊太利の大人、之を詩人と云はんよりも寧ろ豫言者と云ふべき彼は歌ひけらく、

天の劍は急ぎて落下するとなし……然れども落つるや決して逡巡らふとなし。

吾等は經驗を有す、燈明を有す、路迹を有す、過去の轍明々として存し、殷鑑の戒しめ多々之あり、吾等はアーロンの胸に懷かれたるユーリム、サムミムを有せず、然れども吾等を導くべき不變永恒の道德律法を有す、吾等此の導きに隨つて歩む限り、始めて能く大ひなる國民となり、又幸福なる人民となるなり。

嗚呼貿易の隆盛なるはチャルデアの衰ろふるを防ぐと能はず、寶貨財用の足れるは羅馬の倒るゝを支ゆると能はず、歌の鬼神をも泣かするあるも平家の末路を救ふに足らず、文學の慷慨あるも明の世代を長ふするに足らず、夫れ万國を鑑がみるに民道德に破れて能く榮へたるもの抑そも何處にかある、古今四千年、東西百千の建國あり、國運道義の岩ほに安んぜずして能く永生するとなかりしは、水の未だ嘗て高きに逆流せず氷の未だ嘗て熱爐に結ばざりしが如し、人世あらん限り、上帝在まさん限り、道德の律法は一點一劃も廢るとなし、吾國民にして若し此に則らずんば日本の前途すでに明白なり。人の一生に善惡に岐るゝの機あり、機に臨みて狐疑慢怠するときは良心すでに劣敗す亦た正に進むの勇を得ず、一國の善に達する亦之に同じ、世に高尚なる道德論の盛んに起り來れるときは社會の良心の正に覺醒するの時なり、此時に當りて勇猛躍進する所ろなくんば、國運の進歩すでに百年の大計を誤まるなり、デルヒの殿壁に文字あり「汝ぢが好機會を知れよ」と、嗚呼今は社會改良家、道德者、宗教家等耳の此を讀むべき時に非らず、政治家たるもの亦當に長目凝視すべきの時なり。

## 論說

### 日本に於ける婦人問題

左演說筆記は嘗て日本國に來遊せられ我人情風俗を觀察せられたる博士ゴッチエ氏日本女流についての意見を當エナ府地理學協會に於て演說せられし筆記なり余は閑を得ずして自身其席に連る事能はざりしを以て玆にエナ新聞紙上に揭載したる概略筆記を譯出したり氏の演說中日本女流に對して誤見せる件多きも致方無し余は獨逸人が我女流に對する一般の意想を此によりて知る事を得かつ我女流と雖も外人に對して自ら改む可らざる者多きを知るを以て此筆記を譯出して貴紙の餘白を汚す事とはなりぬ。（在獨逸エナ、緒方銈次郎）

一月十二日日曜日地學協會にてハンブルヒ會員ドクトル、ゴッチエ氏『日本に於る婦人問題』なる演題を以て一塲の演說ありき。

演者は問題に入るの首始に於て紀元一千八百五十六年米人日本に來りて互市塲を設けたる事より一千八百六十八年政權再

たび王家に復せし始末の概略を語りて現今日本に於る歐洲文明の注入に依て驚く可き變化を施したる小歷史を擧たり且曰く既に昨年亞細亞全洲の魁首として帝國憲法を公布し今や日あらずして國會開設下院議員撰擧の搬に取掛らんとするの盛なるに至れり條約改正の期も近くにあれば刑法民法は獨逸法律に準じて編成せんとす余は此法の發布する以上は立憲政體の基礎を啓き古來日本國に與たる壓制的の障礙石を排除するを得べしと信ず。

帝國首都東京市街に於て見る所の家屋、鐵道馬車及電話機等は著々歐風に倣ひ漸く進で家族生活、衣服及風俗等に至るまで歐風分子を含有せざる無に至る是等の變化は全く歐人より非常の練修を以て收獲せし者也如斯の進步は遂に彼國婦人社界に著き大變動を生ぜしめんとす實に欣ふ可き事あり。

婦女子の位置の高尚あらざる可らざるを主張するの問題は社會の贊成を表し遥に海外に派出して家族生活狀態を見聞せんと企つ女輩尠からず此運動の先導者は實に辱くも皇后美子の公にして無數の女子學校府縣至る處に設けざる無きに至りしは日本人民の常に同妃に感謝する所なり。

日本人種は蒙古人種なりや將た馬來人種なるやは之を區別するに苦と雖其位階に於ては明瞭なる二種の區分あるを見る一は普通人民にて一は受教育（上中等社界）人民なり第一位内の人民は概ね強壯にして完全なる人種軆格を具ふ（ある有名日本人謂るあり卑賤者善く健康に富むと）と雖も第二位内に入ては身躰柔弱顏色蒼白を呈し勞働を好まず日本畫師の美術心裏には第二種其者の好麗なる者にして勞働社界の有せる壯逞の容貌を美とせざるは余の怪む所なり。

爾後余が述る所の婦人は即第二種受教育婦人の位置に關して說及ぶ者ある事を知り置れたし概說すれば日本婦人は身長百四十七センチメートル躰重四十二、二キログラムを最僅少者とあす皮膚は快黃色を呈すれども常に化粧を粉して變色す殊に吾人の目に驚く可きは該婦の皮膚の清潔を尊ぶの習慣之即一家各浴室を所有し毎日之を使用す猶市街に夥多の浴場を設けて入浴す浴湯の溫度通例五十四度の高きに熱す入浴時間の極めて短きは此高熱に永く堪る能はざるには非る歟余は其浴室に於る男女兩性混浴の狀態を目擊したり一二の外國宣教師は此點に就き非難を加へたる者ありと聞く誠や日本古來の習慣性は此混浴より左のみの弊害の起らざる者と見ゆ。婦人頭髮は硬直にして暗褐色を帶ぶ歐洲婦人は決して該婦の



Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

如き頭粧を飾る能はざるべし如何となれば茶褐色の毛髪は獨り惡魔と猿猴の所有物となせばなり頭髪の粧飾には非常の時間と勞力を要する如し即ち小兒十二歲頃に至る迄は顱上毛髪の一小部を薙落す此は毛髪發育の迅速を需むる爲なりとぞ又前額には三角形にして鉛直に立たる毛髪の一部を設く（前髪の謂ならん）小娘は殊に眉毛の粧飾に注意を加ふ既に妻女となれば全く之を薙剃す容貌は柔和妙麗なり鼻高く細く目長らかに口概して小く屢々紅を綵して大やかに見す染齒は國民風習として之を施す者夥多し藝者（接待人）と稱する女子は必らず毎宴席に連る者あるが此者も亦其風を喜んで染齒する者多し（？）或人云ふ此染齒の風たるや其夫の嫉妬を畏れて殊更に容貌を醜態に變ずる者ならんと此は信難き說あり。

日本婦人の特有として誇る者は彼等の襟足なり實に此所の粉裝に加ふる配慮は一方ならずこは時を經る迄も妙齡の處女と見られんとてなり。

行歩と起居に一種の異狀あるは其罪を其衣服と履物とに歸せざる可らず流行を追ふて時々粧飾品位の異なるは世界一般の事あるが日本國にも時々流行の變化を見るを得然乍ら其變化の間短し今を距る五十年前より爾後今日に至て始めて一大變化を來せる者なり故を以て人民風俗に於ても今古左したる差違を見ざるにて知るべし（？）。

今や歐風は萬物上を吹廻りて漸々衣裳の變化を見るに及べり衣裳は名を『着物』と稱す恰も我邦寐衣に彷彿たり其中部を腰邊に於て帶を以て結ぶ（帶）は巾廣く身躰の背部にていと大きなる結頭を製り殆ど身躰の大部を被ふ。

衣服『着物』は長き『裾』廣き『袖』を有す此袖は手持の仕用物を受納せしむる用に供す即ち煙管（各女必らず携ふて離るゝ事なし）紙（我邦鼻拭手拭の代に仕用する者）等を納る又酷暑の候涼風を送る扇の代用をなし又悲歎流涙の際此者其拭布となる或日本詩家は云へり彼は沖の石の如し退潮の間と雖も乾暇無しと（？）頭被物『頭布』は通例に被らず旅行の節或は寒冬の際に戴くこは疑なく夥多の毛髪粧飾品を頭上に戴くに原因するならん（？）。

結髪『髷』に配慮する殊に甚しきは日本婦人あり髪を結ぶに糸類の力を假らずして木蠟或胡麻油を塗立てゝ固着せしめ皺襞圓屈の多き一大建築物を現出す猶之に無數の簪、櫛を加へて華麗の觀を呈せしむ此等の粧飾は處女最緻密にして妻女は極て淸簡ありかく心勞の後に成たる髷は是非共數日間の保存を



Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

要すべし爲には遂に木製の「襟枕」の必用を感ずるに至る襟枕とは頭を安置せず首領をのみ之に掛て眠る枕の謂なり。

顏面及首部の「化粧」は程善く塗立て見るに麗し此化粧に用ふる粉はヤーラッパ種子或は米粉鉛等を仕用す唇は「口紅」を以て色附く粧后并綠色を呈す亦美なり足には足袋を穿つ足袋は親指と他四指との間に一の深き截痕あり木履の紐を此間に保て履の脫落を防ぐ云々。

(未完)

## 聖書は女子撰擧權を許さゞるか

論者或は曰く聖書は女子の男子に服從すべきを敎ふるものあるが故に苟くも女子にして聖書の敎を信奉せば必らず其天賦の位置を守り男子の下に在らざる可からず云々と余輩は少しく其妄を辨ぜざる可からざるものあり。

(1)若論者の所謂聖書の敎にして二種の意を含蓄するに非ずんば聖書は決して女子を男子の下に居るべしと敎へざるなり語に曰く男女等しく上帝の形躰に摸造し同等の地位を與へられしと然れば論者の云ふ所は即ち聖語に符合せざるものと云はざる可からず昔上帝はディボラビダスの妻を擧て其夫と共に部下の人民を統御せしめたり若一人の婦人執政の權を得しとせば(其境遇の許す限は)天下如何なる女子が亦政治を執る能はざらんや論者尙聖書は女子撰擧權を許さずとなすか。

(2)創世記第一章に敎ふる所の男女共に萬物を治むてう事を以て眞理とせば第三章に云ふ所は預言にして上帝の命令に非るなり即ち人類罪惡に沈染し殘虐に流れ蠻野の風を脫せざる間は男子必らず女子の上に立て之を壓すべしとの預言に外ならざるなり使徒ポーロが「女子は其夫に服從すべし」と敎へしも畢竟其長者智者を適當に尊敬すべしとの意より亦彼れが「女子は然すべき」と敎へしは其女子の云ふ可からざる事を云ふ勿れとの意にして決して女子を以て男子の下にあるべしと敎へしに非るなり。

(3)服從と云へる一語之を解釋する人に依て其意を異にす今日の人々が解する所は古人の釋く意と大に異るを見るされば昔は服從と云へば奴僕下婢の其主人に事ふるが如くあらざる可からずと思惟せり今世に至ては大に之と異り男女同權と更に撞着する處なし昔しサラが其夫なるアブラハムに服從し彼を主と呼ぶや上帝彼に云つて曰く「妻が汝に語らば之に耳を傾けよ」と若斯の命の如く其夫にして妻の云ふ所を聞ば女子たる者如何でか其の夫に服從し尊敬せざるを得んや服從と云へ

るは即ち此意にして決して女子は男子より下等なりと云ふにあらざるなり。

(4)古來男子が其妻に離縁を命ずると多くして女子が其夫に離縁を命ずると少なきは全く男子の剛戻殘暴なるが故にして女子の下等なるが故に非ずユダヤの歴史家ヨセフアスは妻は夫より下るものとなしモーゼの法律によれば女性は精神に乏しく力弱きが故に其證言を無功となせりと云へり然れどもヨセフアスは聖書によく通ぜし人にも非ず其云ふ所必ずしも信據するに足らず彼がモーゼの法律を解釋せしは決して穩當の解と云ふ可からず。

(5)使徒ポーロ其哥林多人に送りし文中に女子を以て破れ易き器具に譬へたり誠に當れりと云ふ可し女子は其筋肉の點に於て活動の點に於て固より男子より弱かるべしされど之を以て男子より下きものと云ふ可からずチヤイナヴエース(磁器の名)よりビプキン(磁器の名)は破れ易し然れど其價値に至つては後者却て前者の上にありされば其強弱を以て品位の上下を定むるの妄此に至つて明かなりと云ふ可し。

(6)太古の時に當り上帝先づ男子を作れり然れど人は社會的の動物なり一人居るは宜からずとて之が配偶として上帝女子を作れりと云ふ其事實の如何は之を他日の問題となし男女の位置に關して如何なる意義を有するかと云ふに余輩の見る所に據れば其配偶たる者は下等なりとの意あるなし否却て同等同位のものたる事を示すを見る例へば猶人躰の機關の如し四支五官五臟六腑相待つて完然なる身躰となる、然れど其内何れを高尚となし何れを下等なりと云ふを得べきか目は口より貴きか頭は心臟より上等なるか余は其然る所以を知らず只其同等なるを認むるのみ男女の位亦斯の如し何ぞ女子を以て男子の下に置く可けんや。

(7)若今日にして基督教を奉ずる所の一万人の女子にして其家に於て教會に於て亦政治上に於て男子と同等の地位にありとせば何ぞ千百万人の女子も亦男子と等しき地位に立ち得ざるの理あらんや眞理は一つなり二物同時に同所を占むる能はず一説にして是ならば他は必らず非ならん若聖書の教ゆる所にして誠に女子の位置を下くしと解す可からずんば必らず男子と同等のものと云はざるべからずされど聖書を信ずるものにして男女異權を唱ふるものあり同權說を主張するあり同權論者を擧ればドクトル、ストルス氏の如き教師ハミルトン氏の如きシムプソン、ハルスト、ヘヴン、バウマン、ブルツク、コンラ




Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

エイ、スポルヂング、ブロッシング、ハム等の諸氏の如き其重もなるものあり余輩は此等の人々と共に男女同權を信ずるものなり。

先の論者の説の如くんば聖書を信ずる女子は決して男子と共に選擧權を得んと冀ふ能はず然れども理論に於ても實際に於ても多くの女子聖書の敎を信ずる所の女子にして選擧權を得んとつとむるを見る、而て今日に於て最も慈善の事業即ち禁酒、社會改良、監獄改良等に熱心盡力するものは實に彼の選擧權を得んと唱道する女子なり依之觀れば聖書は決して女子に選擧權を與ふ可からずと敎ふるものに非ず若敎ふると云はゞ此聖書を誤解せるの徒のみ見よ其敎ふる所は「强者の弱者を壓するを戒め」亦「已のせられんと欲する如く他人にもなせ」と云ふに非ずや思ふに男子にして選擧權を有せずして他人と等しく課税せらるゝは其好む所に非るべし若男子にして好まずは女子も亦好まざる可し已の好まざる所之を人に施す可からず余輩は聖語に基ひて女子をして舊來の羈伴を脱せしめ眞正の自由を得せしめんと欲する者なり。

曾本誌にも見えし如く當時西洋諸國にては女子撰擧權の論正に熾なり余は未だ此事の是非を知らざれども後來必らず我日本にも現はるべき問題なりと思考するが故に今某英字新聞の男女同權論を此に譯出して諸君の劉覽に供する事然り　三月上旬　譯者九十九川生誌

# 批評

## 小說群芳第二―評

社友のお二方より同時に評文を送られました、則はち左に列らべ掲げ、評を讀む人の對評に任かす。

京　鹿　子
雲　峯　子

久しぶりにて思案外史の著作を拜見し聊か感ずる所を記さんと欲す實に外史の文は紅梅の如く甘煮の如く遊女の如く唐縮緬の如く今戸燒の如し(序文にある如く)只夫れ斯の如し故にサッパリとかアッサリと云ふ所は少しもなし讀終つて黑砂糖の田舍汁粉を腹一盃食せしが如く亦と手を出すの氣力なし篇中主人公の一人なる藝妓の戀愛は實にシツコ過ぎて將に嘔吐を催さんとするの感あり余は不粹者にて藝妓の事は知るものならねど一場の忘年會にて一見したる藝妓が斯程迄忠實を盡すの心を起す抔と云ふ事は實際に近き事柄と云ふを得べきか外史は誰あらう硯友社に其人ありと知られたる實際派の小說家ならずや抑藝妓者流は必らず親の爲め若くは人の爲め金を得ん爲めに身を浮川竹に投ずるものなる可し如何なる破廉恥の愚夫愚婦と云へども豈之を以て高尚貴重の職業と思はんや然れば身代あり財產あるの徒は必らず其愛子をして此苦界に墜落せしむるを欲せざるべし亦人の子たる者必らず好んで此に身を投ぜざる可し然るに藝妓が「妾の家に傳はる公債證書と地券云々」(三十七頁)と云へるを見亦橫濱在なる其住居(四十八頁)を見れば純然たる上等社會の居宅の如くなるを見れば是決して藝妓風情に身を下すべき身分と云ふを得んや亦藝妓一人其家に居るも怪し「貴郎の奥樣にならうとは夢更思ひません」と云へるは藝妓の戀愛に不相應なる言語と云はざる可からず(ヨシ口の上丈けなりとも)此等の欠點は兎も角も本篇は著眼甚だ卑き事は近來珍しき著述と云ふべし加ふるに趣向は甚だ古き故大ひに面白味を減ず文章は御得意の言文一致躰にて左程批難すべき點もなし今一二余の目に着し所を擧げん言文一致躰特有の聞きにくき形容を用ひるを見る是或は西洋の文章に倣ふものかは知らねど實に悲哀極るとでも云ふべき所に致つて(泪の雨も又候大降になりそうです)(三十八頁)抔云はれては只思はず吹き出す計りにて涙は出でず其他斯る文章少なからず此文躰には棒が何ゞ斯くも多く入用のものにや僅か十一行廿四字詰の一頁內(四十一頁)に……及び――が合計十有八本ありと或人は笑へり余も亦解する能はずさは云へ今日の言文一致躰と云へるものは眞に今日の言語と一致さすべき目的ならば外史の文は最も言語に近かるべし此事に就ては倘云ひ度きあれどもコハ文章論に渡るを以て他日に讓らん。




Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

### ○紅懐紙　雲峯子

是京鹿子の附錄にして紅葉山人の御著述なり何時もながら一種獨得の文章には感服するの外なし然りながら其趣向に至つては少しも有がたくなし爲永か柳亭でも好んで用ひる所にして古くもあり卑くもあり面白くもなし田舍漢の恍惚を寫す所或は本篇の主眼ならんか偖山人は何時も變的の結尾法を用ひるが故に徒に人をして笑はしむるに止り悲しさか哀れさか云ふ心を起さしむる事なし彼拈華微笑の結尾の如きも滑稽めきて失望落膽のさま見えず本篇も亦然り樸訥昏鈍の田舍漢なりとは云へ其失望は實に憐む可し然るに其結尾の一句は左の如しこは何處へと人々尋れば、南無阿彌陀佛、大夫の墓參、」讀終つて思はずハヽヽヽ笑はすのが著者の目的と云はゞ亦何をか云はん。

### ○京鹿子の評判記　漁山人

表紙は只奇麗だけにて、何となく面白からず、奴紙鳶の看板かと、小石川の三々花は申ました。

紅葉の序文、何だかチツトも解らない、――解らない解らないことが身上かは知られど如此――意だと附會れば寓意あるやうな者です、山人は言はん、紅葉足下は放……の如しと、音あツて其本姿見えないからと。

さて本文は明治の春水と自稱される、思案外史のことなれば、さぞと思ひきや、「月に壹回づゝ」オツウひねツたり、壹回といふ、讀聲ではわるいのですか、「降る樣な猪口の雨」、一寸聞くと何でもないが、よく考へると變だ、「降る樣な猪口」とか「猪口の雨」で足りそうだ、雨の字が降るの字はヌキにしたいのですか。「常時の樣に＝只今＝」下宿やへ一々挨拶をする者あらうか、「またきツとですよ」是だけでは誰れにも解らない、先方の名を一字か二字か朧氣ながらも書てなくては、其意通じません、此點は經驗のある思案に適はぬ。

「往來を見ると千鳥足の微醉客が」云云是は虛だ、本鄕森川町邊を醉客が飛回るとなし學者長家の近處だもの、山人よツく知ツてゐる、「モ一度見るとどうも手跡」云云手紙の來たのが已に黃昏頃、然すれば此時分は早くも點燈頃、それだのに車の上で手紙を讀むとか、出來得ましやうか、思案の眼は梟の眼か知らず、道理で平生口端褒し、それに手紙の來たとき不審がりし、然すればそのとき書面を熟視せしならんに、手跡の女か男か判然せぬとはイヤモウ、「直段書抔を見るとどうしても此店が何か飲食店」、何かが可笑、品物の名がなくて直段書ばかりあつたか、「艶々しい後れ毛それが厭の樣に云云」厭とはテモマア御大層、それでは後れ毛でなくして、片鬢大半ならず、何等の殺風景、「私は袂からハンケチを取り出し」云云婦女の泣くときは必ず袖か、ハンケチ樣の物を目に當てゝゐるが常の樣とす、然ればハンケチを與へる必要はない筈「かう早私が行くとは思ふまい、テモ自惚、イツソ「待ツてゐるだらう」と修正したし、榮より花房に送りし手紙藝妓風でもなし、處女風でもなし、賤女の口吻と友人はいひたり、山人はどうやらしらず、此種の手紙をうけたことなければ、只八圓を贈りて、使用法を指圖するとは、テモ行き過た女、山人は此ンな女大嫌ひ、「光ちやん（お酌の名でせう）」まだ知らなかツたノ、アラマア怜悧な花房さんに、似合はないの子、卷煎餅を袋のまま、菓子皿に載せてだすとは、蓮葉なと、藝妓にあるまじき所行、入獄のと、餘り唐突で、何で入獄したのか說明なきは、何如、歸途の獨語の中にても讀者に知らせて欲しかツた、壽しやへ行き、二階へあがるまでの、花房の情態、餘り初々しくして、許嫁のあるにもかまはず、他の女と交るほどの者の情態と、受け取れません、榮の再勸のときの身代金は、花房どうしました、それで兩親を迎ひ取りましたか、第一其金は榮より受け取りましたか。

總評、　佳きところも、又惡しき所もなし、湯を呑むと一般、面白味といふ者は爪の垢ほどもなし、第一趣工が八角時計、（凡々の洒落サ）思案も自ら野叟となのるだけに、油がなくなツたせへか、器械の運轉大分惡くなツた、例の十八番の宴會、今度は用ひ得て拙し、モウ好加減に許嫁は止めて欲しい、後生だから、一躰全躰點出の人物が氣に入らぬ、花房は大破落書生だ、許嫁のあるにもかゝわらず誘ふ女あるに任せ、それと契を結び、それのみならず、其女の赤心より、調へ吳れたる金圓を――然かも身の代金を――浪費し、――金圓の使用した說明なければ、此疑は是非もないでしやう――終に緣を切ツて、そして離別に臨ンで然ほど哀む色がありません、書生社會に這樣な者があるとは、サリトハ世は澆季、小榮の情態、是も變だ、第一公債もあり、地劵もあり、所有金もありながら、親一人を養はれぬ、理がありましやうか、後では一人物好に、生活する餘裕もありながら、何如に脫兎處女といふ諺があればとて朝が藝妓、中が處女、終が藝妓とは、奇を求めて奇に失した趣工、良家の子女にでも、一度泥中に呼吸すれば、多少面皮を厚くするの鐵まではなくとも、ブリツキ位には、それに何ぞや、すしやにて主婦との問答、そうかと思へば、自ら復び藝妓になる大胆、又手紙の文言の鐵面無き、一回々々に性質の變る女子、此大破落漢と、そして手箇變な淫奔女を描き出しておきながら、男女の中は、京鹿子の樣に美しくいたしたくとは、どこより出て來る詞です、イヤサ何の點が美しいのです、サリトハ盲聾同斷、先づ田舍漢の痴盲、野叟とは名詮自稱といはまくのみ、要するに、這回は常に似合はぬ、與三郎小說にて、外史ちやアない野叟の冷水て、大味噌をつけられた、上手の手からも水がもるといふ、此ことでしやうか、手數のかゝる仇文句外史獨得の妙――何故止めた――

、虫を殺ろさずさもいゝに、デモ殺生、野叟になりてもまだ慈悲にならない近きうちに是非此埋合をれがひます、然らざれば讀者が承知しませんゾ、這回は紅懺紙さ、眉山の跋ある爲に目をつぶッテ、耐忍をしました。「挿畫、第一の年方の畫、筆力强勁、絕佳〱、本文には嬉しやさありたるを、ノるこやを專業さし、傍ら壽しさかゝれたり、これは屋號の京鹿子に對しての考へならん、用意周到、菱形の遊印を紋に見立たのは、御趣工〱、只憾らくは、ショールの縁飾の間があきすぎたせへか、机懸のやうな、此一事です、第二の畫、桂舟にしては竹頭木屑、朝飯前の御揮毫さ見える、相變らず、お强健〱。眉山人の跋、專賣特許でありながら、今度は本文の佳からぬに對照して、遠慮なされ、拙くかくれたかは知られざ、平生ほどよからず、只末句當も太鼓を賣り拂ふべしさは、何等の妙謌、紅紫亭の外、他に言ひ得る者、此文壇に一人もなし。紅葉山人の紅懺紙、常にかわらぬ健筆、之が附錄の景物さは、難有〱、是では、十五錢の西洋料理を食ッて、風月堂の上等菓子を持ッて歸へる樣なものなれども、昧へば、少しは言ひ艸あれども、景物を惡くいふも、何如さ思ひ、虫をこらへて控へました。

## 前週新誌

### ○日本評論

友人植村正久君編輯に係る日本評論第一號出づ、宗敎上文學上に於ける余が親友の手に成る者あるを以て其雜誌を見るの感亦尋常に非ず、冷漠なる無人の荒原に端あく故舊に邂逅したる如く、現時の社會に孤立せる余が衷の喜び殆んど極まる。（譽治記）

### 日本評論を評す

雲峯子

新聞雜誌の數日に月に多きを加ふれども眞に眞面目誠に正嚴なるものに至つてハ實に晨星の如し多くハ世好に投じ人望を得ん事を勤むるの類のみ此時に當り嚴格高正の新聞雜誌の出でん事ハ心ある者の當に希望すべき所なりさす余ハ今「日本評論」を見て以て其發兌を且喜び且祝する所以のものハ只に其文章の巧妙に其躰裁の美麗なるが爲めのみあらす其主義の高尙にして其天職さ信ずる所を眞面目に行ハんさするにあるなり吾人が今此雜誌の發兌を見て喜び亦祝する所以のもの豈偶然ならんや嗚呼豈偶然ならんや。

然れども吾人か喜び亦祝する所以のものハ實に闕ぐ*する所多きが故なり日本評論が大聲揚言して自任自負するが如く政治上に於て社交上に於て經濟上に於て亦文學上に於て吾人が本誌に希望する所のもの甚た少なからず殊に文學上に於てハ吾人の希望誠に切なり本誌が第一號の社說欄に於て三頁餘の長文を揭げ滔々數千言を發して文學の事を論ずるを見れバ本誌の任ずる所亦文學上に於て最も重からんか然り吾人の希望する所本誌の任ずる所斯の如く符合す豈一言なくして可ならんや、吾人が今「日本評論」さ題して本文を起草する實に之が爲のみ。

評論記者始めに島田氏及び「日本」の言を引用して文章の起首さなし頻りに「今日の文學」に就て痛論切言せり吾人ハ之に反對の意見を有する者に非ず然れさ亦之を讀て隨喜渴仰する者に非ず乞ふ少しく其所以を述ん、凡ろ事本末あり階なくして靑空に攀るは鬼神の事のみ通常の人間の能くなす所に非るなり日本の現時の文學は未だ幼稚の時代なり然れども是亦一度は踏まさるべからざる階梯なるかさ吾人は思ふ、將來の希望に至つては本誌さ異る所なし亦大眞理大思想を腦裡に染浸したる大家の一日も早く出てん事を希望するの點亦本誌さ違ふ所なし然れども惡を爲すを止めよさ云ふさも若善の爲すべきを數へずば到底惡は止まざる可し今日の文學は弱屑なり矮小なりさ痛言するさも其大思想大眞理を知得せしむるの道を說かずんば或は益する所少なからん是吾人が第一號のみを見て感服する能はざる所以なり然れども本誌未だ一號にして記者の意見を充分承るを得ず願くは今後益勇壯の筆を揮ひ世の文學者をして大眞理を悟り大思想を抱かしむるの方法を講說せられん事を、之予が本誌に希望する所なり若夫れ夫の方法の如きに至つては吾人亦多少の卑見なきに非ず他日を期して之を論述し亦記者の敎を乞はん今本誌の發兌を喜ぶ所以を記し吾人の希望を述る斯の如し。

### ○染色雜誌

武州八王子より發行するものにして去月末第一號出でたり、卷初に染系數種の見本を張付け、論話も頗ぶる學さ術さを密合するに注意し、目下實際上に多く見ざる有益周密の雜誌あり、特に染物の術たる女藝に關すると莫大なるの故を以て吾人は一層深く其發兌を祝す。

## 雜　録

### アッケルマン孃の演說

花妹寄

郵便報知新聞がアッケルマン孃演說の筆記を讀む其中に曰く此國(アラスカ)の人種は何れより來りしかを尋ぬるに由なし先年より多くの傳道師が傳ふるところによれば太古日本人の渡來したるものにして現今住するものは日本人種とイスキモー人種の混合したるありと云へども其眞否固より判ずべからず余の考るには日本人は彼等より優る數等の能力を有するものと信ず何とあれば彼等の愚なるは眞に驚くに堪へ云々

讀んで是に到り妹は脈躍り肉熱す他の讀者は否らざるか何の爲め脈躍り肉熱するか筆奴之を解せず。

### おみなへし

かすみ

昔し藤堂高虎が伏見に差し置れたる士らいの內に、過失あるもの五人を目代より言上せり、其三人は博奕をしたるもの、二人は島原の遊女に浮れて身代を沽り盡したるものなり、高虎之を聽き博奕したるもの三人は百日の閉門を申付け以後を改たむべしとありて許さる二人は阿房拂とある、高虎他に語りて曰ふやう、博奕を好む人は人に勝たんと思ふ利心あり不埒なれども倘使ふべき道あり、色ゝ貪ぼり耽るものは何の用もあらず、うかれ女に深くたぶらかされ武用を沽却する如きは武士の魂しひを失ひしなり、之を扶持するは家中へ對して無禮なりと云ひける。

### 小　說　病

學者長家　水　魚　仙

凡て精神病に屬する者です然ればさて巣鴨病院に入院するほどの病勢の者も未だありませんが今のうちに豫防が肝心です。

○言文一致病　原因、西洋に心醉するからです、主として洋裝の美人を好く生若い書生は、此病にかゝり易ふ御坐います。徵候、輕症にては、文句をスラ〳〵書くとばかりを勉め、其爲に全篇が素湯を飲むと同じく、味も素氣もありません、毒にならず、然ばとて藥にもなりません、重症にては、論理學の講義見た樣に、只ゴッ〳〵するばかり、又は二三年前に煎ッた空豆を食る樣で、どうも消化を惡くし、爲に胃病になる者です。　豫后、全く不良ではありません、治療をせざるも、時によると自ら飽て、治療したこともあります。治療、强き下劑にて西洋心醉の氣を下だし、二月ほどは源氏物語や、西鶴物を讀んで聞かせ、同時に蝍根木皮を煎じ、五六ヶ月たてつゞけに服用させれば、大抵癒る者です、涙の潮に眼球が泳

でゐますと、いふほど病氣重りては療治、なか〳〵困難です。

○元祿病、　原因、日本に心醉するとと、何の西洋にばかり、佳文がある者かといふ、きかぬ氣が主なる原因です、無暗と古の反古を貴がる、若い僞せ老人に多く見る病氣です。徴候、文句何となくてれ〳〵して、ぷッきり飴でも食べる樣に齒に附着します、奥齒に物が挾るといふが、主なる徴候です、然ればとて骨を折て齒に附着したのを取り、噛み下す時分には、味はなくなる者です、齒に附着する爲に口中の諸病を起し、口を開にもイヤに通がり、それから續て胃病を起し、其徴候として頭痛などを起すと、往々ありめす。豫后、餘り宜くありません、一度此病にかゝると、大抵な藥はきゝません。治療、強き下劑を用ひて、僞せ好古の氣を下し、同時に西洋傳來の腦の作用を變ずる藥を、大量に服用させねばなりませぬ、成るほど〻西洋の事に感心する位になりたれば、藥用は止めてよし、深編笠に突き袖でもして、歩きたいといふほどになりては、用ゆべき藥はありません、

○翻譯病、　原因、日本の文も西洋の文も面白くない、然ればとて支那流も、全く好とはいかぬ、支那五分、西洋三分五厘、日本一分五厘位が好といふが、此病の原因、故に洋行歸か、夫を摸擬る人に多く來る疾です。　徴候、文句何となく齒當り惡く其中に柔きところある樣に、無理に雜ふたる樣です、完然油揚を食べる樣です、然ればにや此病にかゝりたる人は、語氣何となく、スラ〳〵して、然かも演說でもする樣な調子、他人には一向解せぬ箇處澤山あり、時々人の前でまだ消化しきれない、ビステキのおくびをするとが有ます。　豫后、元祿病に比べると、一層宜からず鼻何となく高くあり、人が藥をすゝめても、一向に受付けません、それゆゑ畢竟豫后が惡いのでしやう。　治療、無理におしつけて、三月ほど源氏物語や、其磧自笑物を讀んで聞かせ、同時朝熊山よあるとかいふ日本の固有腦病の丸藥二三粒と、艸根木皮の煎汁とを、五六ヶ月たてつゞけに、服用させねばなりませぬ、それで効がなければ外にやる藥はありません。

太閤秀吉は無學の人でした、或時ふと口すさみて
奥山にもみぢふみ分け、なくほたる
イヤ違ふやうジヤ、曾呂利、違じやつたかいノウ。

# 懸賞答文

## 上點應問

甲　女學生初て家を持ての經驗　　神戸　さほくめ女史

妾は滿十四年八ヶ月の時東京師範學校（今の高等師範學校）附屬小學校の全科程を卒業し引續きて東京高等女學校に入學し滿廿才の時に同校を卒業せり其頃より妾が兩親は頻りに妾の縁談に心配致呉玉ふを側かに聞知りて妾にはいとゞ下心嬉しく此時思ひけるは女子の普運辨ふべき事共は永年の苦學に略々得意の積りにて在り早く一家の家政を自身に行ひ見たく好き縁談の一刻も早く纒れかしと心待ちに待ち居る中其翌年滿廿一才の春となりて今の家に嫁し付き侍りぬ久しからずして家計を一切妾に任せられしに兼て覺悟し居たる事あれば心の底には爰ぞと思ひ悅びて其後は只管心を經濟に用ゐて今日も尙經世に念を入れ居りしが初めて家政を任せられたるときの苦心は今更筆紙にも盡し難く思ひ遣られて學生にて在りしときは夫々の學びには家政學には經濟、裁縫を始め炊事調理法に至る迄又書畫音樂茶道禮法等より濟世の身近かに要用の學科は少しづゝは心得て又朋輩相集りしときなども又夫々に身の行末の事共など語り合て自分には一家を持つも最と易と思ひの外に家政を受持ては諸事萬端兎角にこゝろの如くはならず學生にて在しときなどには夢にも思ひ付ざる樣の事共に攻め立られ一時は泣く斗りに殘念と思ひし事も毎度あり第一下婢を召使ふにも其取扱の嚴重なれば彼は忽ち逃げて行き又緩にすぐれば怠惰とあり中庸にせんと思へ共其中庸てうものこそ中々に見出し難く又經濟の點に至りても中々六ヶ敷ものにて兎角意の如くならざる事のみ多く交際向なども是まで學生にて在りし時の交際とは大に異なりて其鹽梅呼吸に隨分骨も折れ六ヶ敷處あり又舅姑への事へ方を始め一家内の人々併に下部に至る迄の者へ對して自分の意向動作は一方ならず一家團欒の樂も又は波風の立つも嫁の意向如何んにあると思へば容易ならぬ心配を要し世の中のすぎはいは斯くも大事に六ヶ敷事を悟り學生にて在りし時の思想などを思出しては吾れながら吾れとも思はれず妾も兎角浮氣にのみ走りなば無事安穩に優美なる處世は出來まじものを一躰妾が父は昔堅氣の性質にて今の世の人には一口に頑固と云れあんなれども其頑固



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の父の敎育を受けたればこそ妾の身にとりて今は廣大なる幸福にてありし事を悟り三十歳にも近くなりて漸くに親の鴻恩を覺へたるこそ遺憾なれ。

乙のホームも書し侍りたく思ひ候へ共ちと疑問の廉ありて見合せ甲の分のみ差上候。

尙妾は御社の雜誌は始終拜見仕居候まゝ別段賞の望は無之かくし名にして申上候。

評に云く、何如にも經驗上から出たお說で、再三誦讀しほと〳〵感じ入ります、乙のホームの事も「ちと疑問」あるゆへ答へぬとの御申條は一層床しく覺へます、是非とも上點を得玉ふべきお答へです。

## 和歌の浦波

池袋清風

### ○詠草斧正評點に就て

私は骨董品見た樣な物が元來好きではありますが金が無いから買ふ事も出來ませぬし暇餘が無いから見に行く事もなりませぬ固より生れが田舍者です都の人の樣に風雅な事は能く知りませぬ時々骨董店の前を通ります時一寸立て見ましてもどの品が上等やらどんな所が古雅やらサッパリ分りませぬ若し一々代價の札が附けてあります時は十圓とも思つた品は三十錢位で十錢許かと見る品に五六十圓の價がありますから何ぞと一層注意して彼是と見比べ居りますとどこか知らぬ價の高ひのは

### 氣韻のある所

が出て參りますそれでも精しい處は解りませぬが主人が出て來て叮嚀に敎へてくれますとナールほどと合點する處が見えまして初の見違ひも能く知れて參りますでせうそうするど下等品はモーイヤになり名品は益賞翫する樣になりませう若し澤山の骨董品に張札もなく敎ゆる人もないならサッパリ解りはしませぬ解りませぬなら亦面白い事もなく骨董品を嗜む心も薄うございませう是は骨董品ばかりではありませぬ風雅なものは琴でもピアノでも畵でも

口に言へぬ美妙の所があります

から之を能く心得た人は其上手の手を識りて非常に感動致しますが其代に下手なのを見聞しますとイヤでならぬでせう然るに何も心得ぬ普通の俗人の耳には音樂の名人が獨逸國から來て精巧のピアノを彈きますのも下手な日本の女生徒がオルガンを不規則に鳴らすのも別に差ひはしますまい下手なオルガンの音をイヤと思ふ感覺も無い代りに上手なピアノを聽て非常に感動する事もありますまいどちらも音がするから同じ樣なものと思ひますでせう日本に來て居る米國人の奥さん達が御客の御馳走には必張込でピアノを彈きて聽かせます私にも幾遍も彈て聽かせられコレハドーカコレハドーと申さるゝのは一人ではありませぬ然るに私は格別感じませぬから失望して貴位は未知らないからだと申されます又

### 米國から歸ッた人

の話を聞きましても彼地では人民が大變音樂に耽りピアノでも鳴ると路人も多く立止りて聽て居るソーデス音樂會も處々に多いソーデ〻ソーシテ日本の人が之を聽て感じませぬと貴位は人間ではないと申すソーデス是は日本人は未聽慣れぬので如何なる處が好いやら其妙味を知らないからです又詩歌もソーデス今日文明の學者辭句の上に就て喋々言ッては居ますが純粹の詩人歌人の常に味ふ處の妙味を多くは識らぬ樣です況して俗人は識らぬ筈です若し其妙味を知らぬなら詩歌はサッパリつまらぬものです夫れは骨董品やピヤノなどは識らぬ者でも一通りの面白みはありますが詩歌は識らぬ者には全く面白みはありませぬ其意義丈は小學校の童子でも解りませうそこで和歌を識る仲間ばかりが好で詠じますが一般普通の人は度外視して居る筈です併し

### 和歌の妙味を少しく識る事

はそんなに難い事でもありませぬ良師に從て一週間に三四首ヅヽ詠じて凡二年も續きますなら大概解りて來ますされど世人皆學ぶ事は出來ませぬから前の骨董の樣に優劣を識し善惡を批評し或は斧正の儘出しますなら全く識らぬ人でも注意し觀ましたら追々其味が分りませう分りましたら自然面白みも出て來ませうから試に際本先生の御敎示に任せ此雜誌の餘白に先づ我社中諸君の詠から四季の候に從ひ逐次に揭げませうが固より秀逸のみ揭ぐるではありませぬ多くは初學の拙詠を其儘沒に出して斧正評點を加へます若し秀逸のみならば斧正も批評も優劣點も格別要しませぬ我社中の秀逸を見たいなら私が撰者の淺瀨の波を吟味なされ。玆に君官の淑女雅君に御注意を仰ぎたいのは我案山子の舍社中男女初學の人が未熟を顧みずオコガマシウ世間の人に詠草を示すのでは決してござりませぬ唯私が

### 將來の日本文學

に就き國詩發達の準備に就き先づ將來の短歌より順序を以て世人を鼓舞せん爲優劣共に我社中男女諸君の詠を世に公にするのです故に揭ぐるに適當と視たるは昨今始て學ぶ少女の詠も揭げ餘りに拙劣なるは中年敎へたる成人の詠も取りませぬ社中諸君は虛心私に打任せて居なさるのです。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

批評は詠出の儘の形狀に向て下し優劣の標點は其斧正後の價直に從て施す但評點者は古來億萬の詠を悉く暗んじたるにあらざれば或は古歌に類似したる詠にも誤て點を施し亦類似して斧正するの弊なきを保證せず。

、點は趣向一通り聞えて詞つかひに不解、辯難、鄙俗、平凡、重複或は罫格に遮ひ或は類歌ある等の著しき批難なき詠を標す

、、點は高尙、優美、有力、新景情、新思想及餘韻を含む等の諸點中孰れか一二部を少しく含みたる詠を標す

○點は秀逸の歌を標す

されど是皆即座の點也若し撰集料に供へんと欲する時は更に熟考吟味して取捨し右最高點の秀逸といへども十中僅に一二を存するや知るべからず。

こたび我社中の詠を揭けて斧正評點せんとてよめる

ひろふべき眞玉もがなと玉藻くづなみの下よりかきあつめつゝ

案山子迺舍番外女社中

立春　　神戸　川本夏子

山の端うらゝかに出る日影の長閑ある春の始となりにける哉

(朝)(も)(光)

評　うらゝかには和煦也日の長閑に照ることと也長閑は靜穩悠和也孰れも相同じ

子日　　川本辰子

、おもふどち。小松。ひきつゝ春の野に歸るも知らずくらしける哉

(○野邊の。○に)(かれ)(家路もわすれ)

故鄕梅　　川本夏子

、あれはてゝ見る人もなき古里の垣根つゝきに梅か香そする

(たまゝゝにゆふ)

評　初の句あしきにあらずあまり古き也垣根といはゞ結ふといひたる方少しにても新らしき也

春雨　　川本夏子

、古里のふるやの軒に梅の花誰か爲今や咲にほふらむ

(の)(は)

評　古里のふるやと重複也

梅開待鶯　　川本夏子

、我宿の若木の梅は花咲きて鶯なかむ處とぞなる

(老)(にけり初)(のおそくもあるかな)

評　遲き感情を出さん爲若を老にかへたり此場合にては咲きにけり。とすべし其意梅は旣に咲きたがの口氣を含めり又下句宜しからず

## 男女生徒の神經衰弱

藪中筍庵

近頃男女の書生に。ノイラステニー(神經衰弱症)患者が澤山ありますが。筍庵の考では。主なる原因は

第一　運動の不十分　第二　過度の勉强　第三　就眠時の遲刻　です。その主ある徵候は　頭痛。眩暈。食慾不進。記臆力の減少。身躰の疲勞等です。それ故。若し此等のことあッたらば。當分のうちは。餘り凝つて勉强をすることをやめ。野外等に散策などをおし。前に陳べた原因を避ければ。大抵よくなります。尤もよろしきは冷水法にて。每日冷水にて。身躰を拭くのです。始より冷れでやることが出來ぬときは。微温水から段々慣して。終には全く冷水にしてもよろしう御坐います。諸君御注意なさい。

## 赤兒の寢室

愛兒生

赤兒を寢かす室の空氣は何時も新鮮しく淸潔かにある樣深く注意ねばなりません此事に就て或名高い博士の云つた事があります夫れは赤兒の身躰は弱ものて少しの事でも大變に害を及ぼす故其寢室の空氣が少し腐敗なつても赤兒を害しますからよく其の室の空氣を流通させなければいけないと云ふ事です今日の家の作りかたは窓も戸も充分になくつて空氣の流通



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

もよくないが是非共是は改良しなければいけないです大人ですら空氣のよく流通ない室に居れば腦髓が鈍くなり睡氣がさして何も出來ません况して幼なき赤兒が害を蒙るのは當然の事でしよふ是は米國の事に就て云つた事ですが私の見る所では日本の家は西洋人の家より尙窓や戸が少ないと思ひます日本では子供を寢かすには重もに奥の間とか云ふ所です是は靜かで赤兒がよく睡むるからでしよふ而し其奥の間とか云ふのは大抵窓もなく襖を閉めれば空氣の流通しない所です實に是は恐ろしい結果を生ずるものですから赤兒を持つて居る人は早く注意しなければなりません。

## 安眠の時間

ミ、子、

人間は大抵何時間位眠れば宜しいかと云ふ事に就て醫者の間にも色々說がありますが先づ最宜しいと思ふのは壯健の人は六時間から八時間位であると云ふのです身躰の弱い人は夫れより多く睡むらなければいけません然し尋常の人は八時間と定めて置ひたら宜しひです最も仕事にもよるので勤め働く人は多く勞れますから眠る事も多くなければなりません。

おさめさんあの眞珠とりはどんなに面白いでしよう朝から晩迄泳いでたべきれないほどの牡蠣を取るのですもの「さうれーデ」其人達を飲む饑はなほ面白いでしよう」

## 預告

○女流小說家の答書

編者は近時の小說に感慨深く女流小說家に要むる所ろ至大なるを以て過る日左の四問を記して近頃ろ小說界に名ある閨秀に書を寄せ應答を請へり。

一　机下が小說を著作するに至られたる由緣及び御經驗

二　小說に關する机下が理想、希望、及び持論

三　平素愛讀さるゝ所の小說

四　近時の小說文學に對する御意見何如

然るに諸閨秀は之を煩わしとせず續々惠答せられたるに付次號より追次掲出すべし、而して次號には其來着の順序により第一に小金井きみ子（皮一重筆者）の答文を載すべし。

## きよめぬ庭

酒落齋主人

### 其五（上）

救助の天使

何所より吹降らん、山颪のいと劇しく、梢をうち、枯殘たる草の葉ども、己がまに〳〵吹靡せつ、思ざる野邊に、波うたせつるもいさまし。此野邊を横に、森林の間どもよぎりて、ケルンの方に通ずる、鐵道なんありけり。時しも冬の頃にて、寒にはい

ども名の所へ渡りたる、獨逸國の、特には夜もはや、更け行けるまゝ、四隣もひそみ、月さへ今夕は出ぬものから、烏羽玉の暗深かり。さるに細き微なるランプに、照されたるのみなる、中等室の中に、たゞ二人の旅客なん坐りけり。寒さを凌がん爲ある可し、外套の襟深く、耳かくるゝ迄おし入れ、帽子さえ目深に蒙りたれば、共に顏形定かならず、荷物手近に引寄せつゝ、各隅を擇らみてぞ坐したる。「今一人誰ぞ來て呉れば好がナ」とは口にはそれと云はねども、心は同じいわま弓、人の來たるを待ちにける、「此間も彼所の集會の席での話に、當節は實に夜滊車は危險、人が殺されたり、強盜に出遇つたりした者が、度々ある」との事など、思ひ出しては、更に倚ほ、一人の入り來れよかしと、心に祈れど、嘯く風と聞なしてか、滊車はなほ、木葉吹き散しつゝ走るめれ。

兩人の恐れ氣は、いやが上にも盛になりもて行き、互ひに信ずる事の無きまゝ、其所行ます〳〵怪まれける、寒さを凌ぐ爲に覆たる外套も、兇器どもかくし持たるや、何事もなく靜まり居る樣も、さらにまた、紙卷の莨一つ、くゆらさぬ事さえ皆事として怪しからぬはなし、いな兩人は、己等が息の根の、絶えずある事を、示すさえも憚り、似力身なして、靜り居たり。しかのみならず、末は互ひに人を欺んとて、各々睡りたる樣をなし、鼾の聲高々とさせつれど、時々は、眼を猫の如くなして、襟の間より、彼所を窺ふは、すはと云ふ時に、かくやせん、とやせんとの、用意ある可し。されば互に云ひは合さねども、今宵は決して睡るまじと、意を定め、何れにも睡りし方ぞ、敵に糧を齎したるなめれと、思案したる。

睡りたる樣にもてなし、閉じたる眼を見ひらきつゝ、各々己が隅の位置を守り、互ひに敵手を欺きて、勝を得るものとのみ、思ひけるうち、そが一時はすぎ行きぬ、されど恐怖は、はや盛りにさかりて、終に睡りは、おそろしき事と、心を定め「爾決して睡る勿れ」「睡りたる者こそ既に救助を失ひたる者なる」とまで云へり。

つとめて耐しにもめげず、睡りは切りに襲ひ來れるものから、之を耐ふるさえ、いと苦きに、まして己等の位置とし云へば、特に便り悪しく、窮屈なるものなれば、其のつらさ、苦しさ、譬ふるにものなし、されど一の希望は、何所にもあれ、間のステーションにて、乘組む人のあれかしと、思へるのみ、滊車の停る毎には、息を休めて、其人をこそ俟ちたる、さるに未だ時の來らぬものにや、一人の乘客さえもあらざりし。

彼の兩人は、共に心に誓ひて、忘れても夜滊車には、乘る可きものに非らず、實に荷物のみならず、生命をも、危險き淵に、臨ますは、賢者の爲す可き事にあらず、已む事を得ず、夜滊車に乘らんときは、始より敵手に物云ひ交して、其

の人となりと、心中を知らんとぞよけれ、など思ひけるうち、はや夜は二時になんなりける、張詰にし氣力も、はや弛みて、耐ふ可くもあらねど、あるとある精神を、思の儘に出して、ややうやくに眼を覺まし居るものから、恐怖と苦慮とに、苦しめらるゝを、はやこの上は、己の運を、天に任すの外なしと、覺悟定めければ、少しく氣も落ち居て、歎息の聲、斷なんとしつる頃、誰かある救助の天使は來たれり。

## 小說

### 浮世の波間（義）

波月子

此夜十時自宅より電報を受く、余は早卒開て是を一讀すれば家妹豊子の病危篤なるを報ずるものなり喫驚啞然爲す所を知らず、唯だ終夜人世の行路は艱難憂苦の境界に在るを歎じ感慨胸に溢れて暫らくも禁ずる能はず、爲めに一夜を徹す、拂曉詩を誦し先づ海濱を一周す然れども茫海萬里の絕景今は余の視感に通ぜず岩を嚙むの波響礮然たるも余の聽感は痴なるに似たり、身は今大磯にあるも心は此に在らず、時々天を仰で長大息するのみ、旅亭の主人家婢を送りて余に告ぐるに滊車の發車時間既に近きを以てす、余急に旅亭に歸り早卒衣服を改め主人に再遊を約し僅に二三の書籍を提げ車を飛ばして停車場に到る、余が停車場に至るや又後より車轍を轢らして二輛の車來る余は其何人なるかを知らざりき、暫らくして長龍雲を吐て走せ至る旅客爭ふて列車に投ず余も又中等列車に入る、此際余は全く夢境に漂泊するの思ありて列車の一隅に坐して瞑目し敢て四方を視ず、余が傍に二三の旅客入り來りて坐するが如し然れども余未だ其何人なるやを知らざりき滊車漸く發す、忽ち聞く隣客の何事をか喃々するを

學校も始まるから御前に早く歸てもらひたひと度々迎が來て仕方がないがまあどうするつもりだえ、

私は昨日もうどうしてもゆくと決心したのです、

御前行く積り行くつもりでも今朝話したような事情ダヨ、

一人は老人なる可く亦一人は婦人の音聲なり、余は別に其談話の何事なるやをも意に介せず滊車の進行急速の度を加ふるに從て車輪の響きに其談話の聲を奪われ唯だ時々余が耳底に落ち來る斷絕する言語は婦人の音聲として

おつかさんがいらつしやれば私は、……私は學校へは是非行くと決心……山田さんデモ……そして品行が惡ノデスモノ假令何とおつしやつても、……花里おとよさんのような

余は愕然として思わず視線をかの婦人に投ぜり、一見してまた愕然、彼の婦人は思わざりきこれ大磯海濱小丘の上に余の遭遇せし人ならんとは而して花里豊子の姓名を呼べり、余は性を花里と呼び豊子はこれ余が眞實の妹なり、彼の人既に余が妹を知れり、彼れ何が故に我が妹の名を呼びたるか、彼の人果して何人か、猶も視線を鋭くして打守るに怪しむべし小女が容貌、昨日に異なりて何となく青み渡り、頭も重たげにつやゝかなる髪毛のみだれて、眼うるみ眉のあたりにふかき憂へを込めたり、然れどもまた發輝せる意趣の力によりて事物に當らんとするの氣顯はれ唇に深く決心を表し絶えず自制の念を養ふもの丶如し、余は老人の方を一瞥して其如何なる人なるかを伺ふ年既に五十路に餘ぬ可く偉大なる骨柄これ武士の舊を思わしめ容貌最も壯快、色老たりともいとつや／＼しく見ゆ、余は此に始めて老人等が何事をか語り居るかを知らんと思へり、小女は老人を大に尊敬し、老人もかの小女をいたく愛するが如くしば／＼其名を秀子と呼べるを聞けり。

お秀お前が家へ歸ダト必ず第一にその御話しがあるにちがひない、さすればドッチとか返事もせずばなるまいがそう決心をしてもそれは一時の事ダモノ、そうは行くまいよ、山田と云ふ男はそんな人でもあるまい花里とか云ふ人のように兄さんでもあればどうにでもなるが、お前の跡には茂雄と云ふ年の行かぬ弟もあるしサ……ナニ……それだから困る私しなどの云ふ事は頑固だとか、何だとか今の若い者は云ふがそうでない……エ……イーエ……それが………

小女は何事を語るやらんよくも聞えず

學校で私のようなものでも來て呉れと先生がおつしやるノデスカラどうも今……先きの人もよく分りませんしどうしても決心した事はキツト通して見度いノデス……花里さんは兄さんが御許しなすつたとわざ／＼昨日も手紙を下すつたノデスが私も……

余は此小女は確かに余の妹と共に碧天女學校を卒業せしものの一人なるを知れり、老人は暫らく談話を止しきりに余の顔を熟視せり、余は唯だ靜默家妹の安然を祈り時々彼の兩人が擧動の如何を注目せり、汽車程が谷に達せる頃余は知ず／＼睡魔の犯す所となり萬苦千憂を忘れて華胥にあり。

次號より描き傘で野邊遊びと題する小説とは申せませんが種のある作りかへを御らんに入れます　（ゆかり述）

# 寄書

## 日本新聞記者に望む

白川漁夫

女學生中一種病毒傳播の流說一朝日本新聞紙上に上りてより卒然女學社會に騷擾を惹起し或は讀賣新聞の女學生醜聞の雜報となり或は江湖新聞の梅花に對するの述懷となり或は衞生的存娼論者の唱道する所となり平滑坦々たりし教育海上に一大波瀾を生じ有德の君子をして轉た濁世の感を想起せしむるに至れり然りと雖ども此風說たる只日本新聞紙一己の主として稱道し來りしものにして世上幾多の國手中又如此說を吐くもの無く、諸種の醫學雜誌中又如此事實を記載せるとを見ず、之れ余の大に該風說に對し疑惑を生ぜし所以なり、於此爾來聊か耳目觸るゝ所常に注意留心して探究を務めしが遂に探究の結果として該風說の眞に僞ふるとを知認するの道を得たり、而して其探得したる事實は女學雜誌二百〇三號に揭げられたる慨嘆居士の報道に大に類するものふり否或は全く仝一なる事實なり故に重複に渉るの傾きあれども左に余の事實として確かめ得たる所を記載し併せて日本記者に望むものあらんとす。

(1)、日本記者の認めて「ドクトル」となす者は實は眞の「ドクトル」に非ずして現時某私立醫學校の第四年生徒なり。

(2)、該醫學生は本年醫術開業後期試驗受驗者の一人なり。

(3)、日本記者(或は探報者?)は一日知己の家に於て該醫學生に會し家主の紹介に由て互に自己の姓名を告げ對談雜話遂に廢娼論に說及し女學生徒疾病云々を遣搆して論ずるに及びたり、但し其家の主人は該醫學生徒の身元引受人(學校入學に就ての保證人)なり。

日本新聞社員よ汝は彼の醫學生の美裝佳服を身に纏へるを以て早計にも「ドクトル」と見做せしか、否余は決して探報者の目如此盲ならざるを知る、然らば彼の巧みに世事を談じ衞生を說くを以て早計にも「ドクトル」と誤見せしか、否余は決して探報者の耳如此聾ならざるを知る、之れを知る故に余は信ず社員は全く彼れの爲に欺かれたるとを、必ず社員は該醫學生の大膽にも「ドクトル」某と自稱せしを以て其何れに開業營醫するか、何れの醫校を卒業ふしたるものなるやを尋問せずして只其「ドクトル」の聲を信じ輕卒にも忽ち漲擴し營業未だ成らざるの一學生を尊重敬貴し之れに向て意見を聽くに至りしものなる可し、余は該醫學生の横著なるを憎むと仝時に社員の淺慮なりしとを憐むものなり。

若し日本記者にして初めより醫學生の言なるを知るも世人の信用を得んが爲にりに「ドクトル」の名稱を附して虛說を新聞紙上に鳴らせしものならしめば余は實に日本記者に向て望むべきものあらず然れども余は信ず日本記者は斯かる不德の君子に決して非ざるとを、之れ余の日本記者に望む所ある所以なり。

余は實に日本新聞上記載せし所の女學生疾病に關する記事の全く誤謬に出でたるものと斷言せんとす、如何んとなれば余の探究に依て得たる眞の事實上より考ふれば到底該記事は一學生の虛搆より來りしものなるとを知り得ればなり。

加之近刊女學雜誌上女學社員及日本社員の對談の狀況を見るに日本社員は頑固にも深く「ドクトル」一人(日本記者の所謂)の迷惑を恐れて其姓名を明さざるが如し之れ余の益々疾病記事の妄なるを確むると仝時に愈々余の探究せし事實の信ずべきを證するに足る所以なりとす如何んとなれば該說をして若し眞の「ドクトル」の實驗說なりと假定すれば其「ドクトル」の名稱を世人に明報するも毫も憚かるの理無きのみならず却て公然姓名を出し彼說を報道せざる可らざる理なり、此際余輩は該「ドクトル」たる者に對し教育社會幷に衞生社會上に漸く發せんとする一大災害を發見したるの大功を深く謝せずんばある可らず、然るに日本記者は强て之れを隱蔽し只だ某「ドクトル」の名稱の下に說を立つるに至ては余の疑惑を深むるものなりと云ふ可し。

故に余の日本記者に冀望する所は他なし唯だ速かに記者の所謂「ドルトル」なるものを重訪し深問熟尋以て果して「ドクトル」なるや否やを探驗し彼の僞詐者の化皮を剝去る可し必ず此際記者は豫想外なる事實(即余の前記せし事實)を探り得、幷せて全く欺網に罹りたるを覺ゆるならん、然り之れを知得せば直ちに新紙上に疾病云々の正誤を大書擧揭し重れて眞の事實を載記し以て一は該記事の妄なりしとを天下に示し、一は女學生徒等の爲めに寃罪を淸む可し、語に曰く過を改むるに憚る勿れ、と日本記者よ宜ろしく迅速に眞の事實を探檢し以て該記事を輕卒に信じ早計に記したるの罪を謝すべし、然らば天下又何ぞ日本記者を認めて不德者となさんや如何んとなれば汝も保守的道德衰頽を嘆ずるの極、轉た熱心にも誤りて記載せしものなればなり。

上記する如く日本記者にして速に誤を正せば可なり、若し否らずして頑固にも尙ほ僞「ドクトル」一人の迷惑を怖れ天下公衆を欺かんとするときは余は日本記者を目して兎く社會耳目たる新聞記者の職を盡さゞるものと云ふべし、否余は日本記者は搆造說を自知し天下公衆を欺く者なりと斷言せんとす、如何んとなれば新聞紙たるものは決して一私人の爲めに造られたるものに非ずして天下公衆の利益を計りて設けられたるものなるを以て決して一私人の名譽如何を憚り天下幾多の公衆を詐り妄說を造るべからざるものなればなり、況んや該一私人は記者を欺き、女學生を傷け、僞說を吐きたる、憎む可き、忌む可き賊なるに於てをや。

### ○寒さ

杭畔漁史

雪空重げに灰白みて縫目を見せず肌を斫る風新河岸の大路を吹さらしていさ强し是故松の梢うめいて止まれば河波音立てゝ足を早む是は堪へきらぬさ手を口に壹ふてぼんやりさ往來に人を見つめゐる舟子もあれば兎もすれば蹴出さん白き脛あらはして裾を握て逃ろが如き乙女もあり、赤きが上猶頰赤めつゝ走る下婢、短きヘッピの袖口もて鼻ぬぐひつゝ片手に空車を引て歸る車夫、二重外套の羽翼を兩手にからみ身躰へ卷きながら身震ひしつゝ急ぐ判任官、さても〳〵も暴々しき今日の空合我足の指先消へ失せむさ冐はむも愚かなり風はげしく吹つける度に襟元より闖入すれば胸も始めて生れ出でぬ、口わなゝきて齒の根合はず、實に我持てるものさては唯々我頰のみさぞ思ぼゆる僅か一部の皆それさへ右に持換へ左に讓り遂に落ちたり落ちたる書指先恍さして容易に拾兼ぬれご此時全く跡を絕ち最早雪チラホラ、

### ○幼な子と詩人

青葦小史

床の中なる稚子は。稚心に思ふ樣。暗き今夜の此の聲は。いつか乳母より聞たりし。惡魔の軍の喇叭にて。我がいたづらを懲めに。鬼の來しにはあらざるか。年も六十歲の上をこし。病み細りたる山がつは。爐の中にそだくべて。冬の仕度のあらなくに。早や雪空になりぬなり。あわれ今年は如何なれば。かく觸の繁にや。

實に大神の我〳〵を。惠み玉ふは今更に。いたり盡せぬ限ぞなき。かくも淒しき冬の夜に。この音樂ぞしならしさ。詩人は耳を傾けて。眼に笑を顯せり。

明治二十三年二月二十四日朝　駿台の客窓に於て認む

### ○孤島の囚人

孤小人

故郷を別れしより月の下なる雁音幾させに鳴きしぞ、野末の花も幾春を宿ざせしぞ、岩根に繁る艸さても憂事を添ゆる種なればいでや、柴の住家に臥し眠らん一炊の烟冷らかにして松の梢風断くそして昔を忍べば、かごさがましき野邊の蟲音、悲しく思はれぬ、友呼ぶ鳥の聲聞くも憐れの外はなかりけり、今夜も空しく艸の衣に身をやつれ、夜寒の風に暴されて悲しき夢を結びて明す哀れは誰に傳へん。

門出でゝ深き艸路に押し分けて行けば久しく押れし島の群、寄りつゝ集りつゝ他界の神さ身を崇められ、憂事も今や去るべきに、岸打つ波の白烟、心に、さそわれて、罪なき、子孫(島)を集めて區なる、汐路を待つも影なき舟の情なき、いかなれば、かくまで、苦しむぞ。

## 懸賞和歌募集廣告

### 開書

春陽來復花笑ひ鳥歌ふの佳節さなりぬ或は東風輕袖を拂ふの日靄々さして水上に亂るゝ花を眺め或は微溫肌に快きの夜朦朧さして中空に霞むの春月を望めば誰れか多少の感なからんや夫れ和歌は感情を發表するの器なり我社會題を揭けて廣く和歌を全國婦女子より募り一は以て歌道の隆盛を計り一は以て女子の此道に一層熱心するに至らん事を望む江湖の婦女子諸君願くは續々秀詠を投寄せられん事を

歌題　水邊落花　春月朧々

○本月卅一日限〆切○第一等賞上製百人一首講義○第二等賞美製百人一首講義○第三等賞女學雜誌一ヶ月○一題につき一人一首に限る、○撰者池袋清風大人　女學雜誌社

### 第二回懸賞文の問

題。女學生出校して后ち學びたりし學科の何れか、尤も實効を奏せしや、附たり出校后學窓を顧みて教科上に於ける感覺何如ん。

右答文〆切四月五日限り、一等賞女學雜誌廿冊切手二等同十冊切手三等同五冊切手。

### 有樂堂主人へまいらす

常盤木　千代子

眞白なる越路の山の木枯のいさ寒みほのかに匂ひ初めたる春の夜の月の光さへ凍るかさ思るゝ僻陬寒地に住ふ身のうたてさは都の文の林に咲き香ふ花も數月の後ならでは得も眺めず。主人のものせられたる米國の婦人てふ名著の芳名は夙に女學雜誌の上にて聞しかも手に取りて嬉しくも拜讀したるはつい此頃のとにてあり き大枚の黃金さ幾多の星さ多量の腦力さをもて精細に觀察し玉ひし米國婦人の狀景をいさ面白く又可笑僅々百五十頁中に於て日本婦人に對照して歷々覩るが如く詳說せられたるは誠に妾の千感萬謝する處ろにこそ。今や主人の芳名は高著さ共に翼なくて天下に翱翔雄飛す妾が蛇足の讚辭亦何の要かあらん。只妾が身の不肖をも顧みず拙筆を揮て貴重の紙面を穢し主人の膝下に奉啓するはやむにやまれぬ感想あればなり。口さがなき嗚呼のしれ者かなささげしみ玉はんも知れぬさもあわれパシフヰック洋大の心もて御受け下さらば妾の幸福亦何にか喩へん。謹んで高著を拜讀するに主人が揭げ玉へし著書の理由中第三及び第四の理由が却て高著の價値を下落せしめたるこそ實に遺憾なれ。例へば六頁七行以下、六十九頁十一行、百九頁五行以下、百二十頁四行以下の如きは此の二の理由より來れる筆法なれども妾の如き心根なき者は父母の前にては得讀ぬなり。主人が笑の中に述べんさせしはよき思ひ付なれども笑さ猥褻さは事大に相違せり決して同一物にあらず。妾敢て勸め奉る爾今以後斯の如き誤解の筆法はよく〳〵心して避け玉まはん

ことを。又再版の機もあらば其他の猥褻の文字及節々は悉皆之を淨め去り玉はんことを。且つ主人は今日の牧師の途面蕩なるを告め玉ふれども妾は今日の牧師方は却つて所謂彼の開化……惡き意味の……に進みつゝあらぬかと疑ふ……あるとは決して思はれど……位なり。又第二、第三、及第四章の結句を讀むに主人は善惡のけぢめもなく一向に米國の風俗を採りてよきぞと數嶋の大和の若年男女に諭すものとこそ思ゐれ。何故なれば一言一句の批評をも加へず妾等若年者に取捨の栞を與へ玉はざりしや。惜みても尙ほ惜しきは主人の此の著書。餘りに面白く述べんとして猥褻に陷り却て勸惡の傾向を帶ぶ。餘りに事實を事實の儘に摸寫して文章に餘音嫋々の妙處なし。善惡の批評なく讀者をして取捨に迷はしめ且つ主人の米國心醉者なるを疑はしむ。是れ此書の三大欠點、是れ妾が改良を切望する要處なり。主人乞ふ妾の率直なるを憐みて告め玉ふなくんば幸甚〱。

## 文詢

●齋藤すま君　英文和譯、和文英譯とも丸善にて賣捌く高橋五郎氏の字引又は同店にあるヘボン氏の字引を力らにし、ワイコッフ氏の作文書を用ひ玉はゞ宜しからん。又英和の字引では先づ日就社版の英和字彙が宜しひでしやう、丸善の英和双解字典も一寸と役に立ちます。

●高橋綾君　普通の洗濯法は前の夜より石鹼水に浸して置くか又はソーダ水にて煑るか、其他サイカチ、ムクゲの汁などを用ひても宜しひです。飲水を試驗する極簡易の法は石鹼を溶いて見るのです、あはの能く立つ水が大抵善いのです。磯娟者手の方法は追々此雜誌上に揭げます。ざつと西洋風で手輕料理の法を善いた本は先づクラゝホイトネー氏が日本文で著わされた手輕西洋料理法でしやう。女子の職業を取調べた善と云べきものは未だ出來ません、銀行で女を用ゆるなどは至極善いとで中にも簿記計算などの事に使ふのは取分け宜しひです、然しまだ我國には行われません、民友社では今月から女の編輯員と事務員とを一人づゝ用ひられる樣で眞に喜こばしひとです。

●ＡＢ生　十三四のおりへの遺物、手前勝手のやうですが「猫と鼠」が宜しひかと思ひ升。

●伏見子　あなたの御尋の小說家の雅號俗稱の殘りを種々と取調ましたが、中々わかりません、今わかつた丈をお報せ申します（波狄英子）鳥歌散史は大阪の「活眼」の記者嶋本太郎氏、笠園主人は江戸新聞の記者井上眞雄氏、迷花生は中根淑氏です。

## 時事

### 讀賣新聞の應答

前號編輯を了れる後ち數日を經過し、八日に至り讀賣新聞主筆高田早苗君より來狀あり、中に云く、

……若し左の四條件御含の上は何時にても御話可申上候

一　御話申上候事柄に付ては何事によらず總て新聞雜誌等へ御載せ被下間敷事

二　御話申上候事柄他へ御洩し被下間敷事

三　本社へ事實の通信致し呉候者の姓名は御話し難致事

四　掲載候事實の中一二件は特に事情あり御話し難致事

故に吾人は其後再たび該社に行き其大略を聞質したりと云へども但だ前四條を約するによりて初めて聞得たるとあるが故に止を得ず其事に付きて公言するとなかるべし、然れども之を種として一層探索し吾人が耳目を用ひて承知したる事を公けにするは勿論の事にして、且つ吾人が爲すべきの義務なりと信ずるを以て、異日更めて之を記するとあるべし、吾人は本來秘密主義の無効なるとを信じ、曾ては日本大臣にして若し洲崎の開業式に臨まば之を天下に公告すべしと痛論し、且つ決心したるものあるが故に、苟くも其事實にして之れ有り且つ之れを暴露するの可あることを見ば、他日容赦なく公言すべし。

## 日本新聞に望む

と題し、白川漁夫氏より長文章來れり、其口換に云く、

小生は別帋記載の土地に住居し現今医學を研究しつゝあるものなり。

小生は女學雜誌二百三號中投書家の慨歎居士と稍や關係を有するものなり。

小生は決して僞戯を吐き以て大新聞に對し禮を失するものにあらず。

小生は女學生の冤罪を濟がんが爲め熱心に此文を草したるものなれば必ず〱記載あらんことを乞ふ。

小生は假號白川漁夫と稱す雜誌上記載の節は必らず此假號を擧げ實名を省畧あらんことを乞ふ。

斯く斷り書を序し、一千六百餘字の慷慨ある文章を送られたり、寄書欄内に掲ぐるにより、參看あるべし。

## 少年矯風軍

根本正、中川永輝二氏發起となり、將に少年矯風軍を組識せんとす、何等の快報ぞ、威張り乍ら惡を侵す上流家を容赦なく攻擊し、辨護人なき無辜の弱者を無謝義にて救助し、何如なる結魂物なりとも惡しきものあらば悉とく破壞し、何如なる細微なるものなりとも善きものあれば悉とく助長し、情實に關せず權勢に懼れず斷々乎として敢行矯正することを得るものは只だ少年のみ、淸き少年のみ、少年矯風軍のみ、吾人は其の速かに出來上り例へば今回の女學生事件の如きに十分盡力せんことを熱望す。

## 閨秀二女史逝く

近時二つの凶音に接す、一はブライト、ルーカス夫人、即はち有名なるジョンブライト氏の令妹にして、嘗に萬國婦人禁酒會の會頭となり、現に同會の副會頭となれるルーカス夫人は、此頃ろレビット夫人が英國に在る砌り迄で切りに禁酒事業に周旋し、年老ひたれども尚矍鑠として社會改良の事に盡力せられたるが、二月十二日桑港ウイクリー、ポルテス新聞の報告によれば過日遂に逝去せられたるよし、其世に爲せし事業は既に多けれども、何如にも殘念の事なり、肖像及び略傳は本誌第六十一號にあり。

二は獨逸老后アウガスタ夫人の御事なり、左に同國よりの來信を掲ぐべし、

獨逸國故維廉第一世皇妃墺額士丁夫人齡を重ると七十九歲にして千八百九十年の新禧を迎へ日尚淺きに遽然惡疫の侵す所となりて易簀せらる獨逸國民痛哭の情想ふ可きなり生等異域の民と雖も夫人の爲に喪する無き能はず然れども顧みて樂園の境緑蓋紅氈の間胡朗と再會し手を握て十年の古を語らるゝやを追想すれば單に悲哀に沈淪するに及ぶまじ獨人の心意を慰るゝ者亦其　に在つて存せんか。

生の同妃に就て見聞せしと尠しとせず彼の破天驚地の偉業を成功し赫々の照名を歴史上に殘して萬民を心服せしめたる故維廉第一世の配嬪として朝に悲憂を別ち夕に喜樂を偕にしたるの女皇につける傳記の女流社界を動す勢力を有せる者を讀たり彈丸飛雨の間を奔進し死屍積山の上を往來し硝烟天日を障り叫呼雷鳴を欺く修羅場に猛憤雄怒進む所敵なく當る所軍なしとは屢維廉公の傳記中に誦する者也又聞く秋夜三更霜軍營に滿つ維公庭前に逍遥して朗渡れる月影に故郷いかに戀しかるらんと輕吟し心緖亂如絲の際『汝楯を執て出楯に乘て歸る斯巴爾太の壯年を學べ』との夫人の勸奬に恢復せらる剛氣も有きと」余は信じて疑はず維公の成業は其嬪の力預て其半に有とを出ては朝廷に國の治安を助け入ては內裡に家の修理を整ふ維廉帝を見て贊歎するの眼を有する士は轉じて同妃の言を頌美するの口を有せよ獨逸合併の偉業豈敢て老帝のみに是歸すを得べけんや燕氣力能く大船を萬里の遠に運搬せしむ然れども之に加へて順風に乘じ眞帆を擧て走れば其速力の增加するとあるをも知ざる可らずアウグスタ夫人は千八百十一年九月三十日ワイマル府に誕生せられ父は大公爵フリードリッヒ公母は魯西亞大侯爵夫人マリア、ハウローナ孃と呼ぶ夫人の生れたる當時は恰も獨逸文學發達の高點に達したる際にして特に有名なる詩家シルレルゴエテの生存せし折なりシルレル氏の夫人はアウグスタ夫人とは知己の間にして常に書簡往復をなせり夫人は常にアウグスタ孃は才智容貌衆に優る後來恐る可しと贊せりゴエテ氏は時々令孃の爲に文學敎授の勞を負たりと云ふ氏の孃に就て賞歎を與へたる辭尠からず兩親は此優麗なる小蕾に他日壯麗なる花を開しめんとして敎育したる橐駄師なれば其苦勞の一形ならざりしをも察す可し十八歲の妙齡に及びて當時王フリードリッヒ、ウイリヘレム第三世次男ウヰルヘルム公に緣談整ひ一千八百二十九年六月十一日盛儀を以て結婚式を擧げ玆に偕老の契を堅せらる爾后膠漆の交　益密に千八百四十八年一子を擧ぐ是を先帝フリイドリッヒ第一世とす六年を經て一孃を擧ぐ孃はパーデン國現今大公爵に嫁す子息令孃の敎育に配慮せらるヽ非常なりしと聞維廉公功成り名遂て遂に獨逸皇帝に即位するや夫人も亦皇后の榮稱を受く都を伯林に定む曩年公の薨ずるや慟哭措く能はず悲哉配偶新墳土未た乾ざるに再愛子の易簀に會し爲に老躰に異常を感觸せる事尠からず爾后

身躰を閑散の位に置き專ら餘年を宮中に營れしが目下惡疫(influenda)全歐洲に蔓延し延ひて夫人を侵す若皇帝、皇后陛下の厚き看護諸侯及諸大臣の參内名醫の投藥其効無く病肓膏に入り一千百九十年一月七日午后四時三十分逝らる。

夫人生前事蹟は赤十字社看護事業及獨逸婦人協會及伯林共有庖厨(此は隣人を愛する意より出し者にして衆民相共有して庖厨を築く法之)に於て見べし夫人の病院を巡回せらるゝ節には一々不幸ある病者の手を執りて慰勞看護の勞を親らせられたり、傳染病流行の際には撲滅せん爲め病理健全學に研究する所ありて學術進歩を活潑ならしめ實扶的里亞病の防禦術を講ずるには夥多の金額を投つて惜まざりし等凡て世の福裕を謀り殊に貧者に優渥なる恩惠を垂れ給ひしは獨人殊に獨乙女流の夫人に向て感謝を捧げし事實なりとす以上は夫人略歴に過ぎず夫人佳行金言等服膺すべき者多し次便を以て其一二を報ぜんとす。

## 女流の演説

女流もし止を得ずして公衆に演説するときは、上が上にも用心して其優德を破らざるやうにすべし、肩を張り目を逆さまにして激語を絶叫すると安んぞ其天職あらん、元來男子が女子に對するの僻見は積習に出で理論上に發するの事にあらず、然るを只だ理窟によりて之を解き去らんとするは抑そも末なり、須からく男子の感情を動かし其本然誠實の高德に訴たへて靜かに女權伸張の實効を收むべし、此時に當り生意氣あり無禮ありなど云へる感覺を一層惹起せしむるとも何の益あらんや。

### 妾は戀慕せり

如此き言語は假にも婦女子の口より出すべきものに非ず、況んや之を演題に掲げて堂々公衆に向て論述せんとするをや。

## 廢娼記事

●●●●●厚生舘大演說　去八日夜同舘に開きたるものは、婦人矯風會風俗部の發起にて餘金を用ひ廢娼の書を印刷するの計畫なり、巖本は社會と道德と云へる題にて辨じ、島田三郎氏は廢娼論の精神及其順序と云へる題にて辨じ、小島官吾氏主會したり、聽衆八百餘名にて頗ぶる謹聽し、終末には滿場大喝采を表し近來無比の盛會なりき。

●●●●●一書生書を寄す　同夜右松と云へる人は一書生と署したる書狀を島田岩本兩名宛にて厚生舘に送り、其夜は是非とも臨會傍聽する心得なりしが不得止事出來し欠席するに付寄附金の事に付助力するを得ば何なりとの用を仰付られたし云々と申越されたり。

●●●●各大臣に上書す　婦人矯風會頭は各大臣に廢娼の建議書を呈送したり。

●●豫告　今午后は鳥居坂會堂に於て、イビー、平岩愃保、及び巖本等の演說あるべし、次週には廢娼壯年義會の淺草鷗遊舘に於ける大演說、及び壹岐殿坂會堂に於ける婦人矯風會風俗部月次廢娼演說會あるべし。尙ほ廢娼壯年義會に於ては今后月々廢娼大演說會を一回づゝ催さるべし。

●●●●廢娼壯年義會　去一日同會の臨時總會を開き集るもの七十餘名、安枝武雄氏議長となり、青木秀二郎河原久二郎の二氏の說明の任に當り、左の如く議決せり、



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

一　會員は每月五錢以上を納る事

二　本部事務委員七名の外府下各區に委員一名宛を置く事

三　事務所を設く　事

四　記章を帶る事

斯て左の七名を擧て委員とはしたり、

入江錦五郎、平野嘉太郎、河原久二郎、安枝武雄、寺崎泰吉、野條愛助、野崎福太郎、

●●●●●娼妓に書を送る　右廢娼壯年義會は吉原洲崎等の娼妓に向ひ銘々勸告書を送りたり、其全文を掲げたくあれども餘程に長きを以て略す、娼妓は之が爲に大に感動し彼此と立騷ぐものありしかば、樓主は警察署に訴へて取しづめを依賴し且つ各娼妓に說付したりと云ふ。

●●●●●娼妓返書を送る　中にも新吉原は之に對し返書を送り越せしよし也。

●●●●●鎭西廢娼會　豐前國小倉太鳥居町にある同會より報告如左、

鎭西廢娼會細則

本會憲法三ヶ條に基き明治廿三年二月廿五日左の如く議決す

第壹條　本會は事務所を福岡縣小倉町に置き本會の事務を取扱ふものとす

第貳條　本會は理事五名を置き本會を總理せしむ

第三條　本會は演說又は遊說を以て世論を喚起し目的を遂くるものとす

第四條　本會は男女を論ぜず左の二種より成立つ

一通常會員本會の憲法を遵奉し共に運動するもの

一特別會員本會の目的を贊成し金錢を寄付し又は周旋をなすもの

第五條　通常會員は每月當分會費として金五錢を出すものとす

第六條　本會の景況及び同盟は費用の許す限り諸新聞雜誌に報告し本會と同主義の會に連絡を通するものとす

第七條　本會は每年二月八月の兩度に於て大會を開き會務の報告及び役員の改撰をなすものとす

第八條　本會員にして本會の名譽を汚すものは直に退會を命す

右八ヶ條決議后理事五名を撰擧す而して其被撰擧者は即ち左の如し

理事　原田武者槌　河原林秀雄

三島イ[illegible]　理事中の會計兼書記

金生小太郎　高橋玉槌

## ○女報

○行啓　去る五日皇后宮陛下は華族女學校へ行啓あらせられ各教場に臨ませられ校長以下教師及職員並に生徒に至る迄物を賜ひて還御あらせられたり。

○松方伯の家庭教育　同伯は子弟の教育に尤も注意せらるゝ由なるが聞く處に因れば伯は常に其令息令孃に向ひて此馬車人力車は父が勉强にて成れるものなれば御身らの通學に用ゆべきものにあらずとて風雨の折にも徒歩にて通學せしめらるゝと云ふ。

○赤十字社病院　同病院に於ては今回耳科を設置し其主任を醫學士賀古鶴所氏に委囑せられたる由。

○女子演說　去九日厚生館に開きたる女子演說會には、吉田梅子、川口靈井子、花形玉子、川口梅子、岡關梅女史等の演說あり、彼の妾は戀慕せり云々の題は改題して國家的志想となりたり。

○產婆　近年著しく進步し且つ隆盛となれりしは產婆の術なり、之が爲め府下のみにて其藝を教授する所ろ公認の校四つ、未公認の所莫大なるが、中にも六番町に慈善の二字を冠する產婆學校は高原みれ子の管理するものにして、過日既に第一期卒業生五名を出し、今月廿五日の第二期卒業生も亦た數名あるよし、而して右第一期の卒業生は東京府の試驗に悉く級第せしよし、人名は高橋とも、高原こう、四戶いさ、土肥もと、星野はなの諸子なり。

○女子獨立學校　の資金補助の爲め昨夜七時より鹿鳴館に於て音樂會あり、其切符賣上の代金を以て校資に供へらるゝ由、嚴本も臨席し一言したり、且つ來廿八日頃に同校の開校式あるべきよし。

○婦人矯風會風俗部　の部長は荻野ぎん子、副部長は湯淺はつ子、幹事は德富二夫人、横井さよ、富益みつ、小島きよ、の六氏に定めぬ。

○十三の產婆　此程京都府に於て擧行せられたる產婆試驗に及第したる者は十五名なりし由なるが其中松村さきと云ふは本年十三才の妙齡なりと云ふ。

○東京女子聖書學館　芝區二本榎西町なる同館にては女子をして特別に聖書を學ばしむるの目的にて此度新に規則を定められたり。

## 週報

○官令　四日勅令第十九號を以て參謀本部條例中追加の件を裁可公布せらる●六日勅令二十號にて國債に關する仕拂及收入金決算の件を裁可公布せらる●七日法律第十六號を以て壹岐對馬電報料の件勅令二十一號にて陸軍豫備後備下士兵卒服役條例中追加の件同二十二號にて徵兵令第十一條第三項に依り陸軍現役に服すべきものゝ徵集及服役に關する件同二十三號にて東京電信學校官制を廢止し東京郵便電信學校官制々定の件を裁可公布せらる●十日勅令第二十四號を以て陸軍將校及同相當官退役の際名譽進級の件を裁可公布せらる

○宮庭　四日天皇陛下樞密院に臨御あらせらる●五日皇后陛下華族女學校へ行啓

●七日天皇陛下內閣へ臨御し玉へり

○政治　四日內閣會議に山縣、山田、松方、西郷、大山、榎本、後藤、青木の大臣參集せり同日樞密院に於ても會議を開かれたるが天皇陛下には臨御あらせられ有栖川熾仁親王三條內大臣にも臨席せられたり●六日各警察署長は會議堂に於て協議會を開けり●七日山縣、西郷、松方、大山、山田、榎本、後藤、青木、岩村の各大臣は登閣して會議を開けり

○外交　和蘭代理公使は去る四日外務省に出頭せり●五日佛國公使は宴會を催せり●六日各國公使及夫人は天機伺として參向せり

○美術　日本音樂會にては去る十一日鹿鳴館に於て臨時大音樂會を催ふせり

○新誌　日本評論は去る八日を以て其一號を發刊せり





Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

# 二大寶典出版豫約廣告

二大寶典

英國ヘンリー、ザー、ボーン氏編輯
經濟雜誌社譯

再版 泰西

## 政事類典

增刊豫約者募集廣告

右ハ原名「ポリチカル、サイクロペヂア」ト題シ行政、經濟、財務、商業、法律等ヨリ交際上ノ諸項ニ至ルマデ上、羅馬、希臘ノ往昔ニ溯リ下、今日ノ現狀ヲ審カニシ原委沿革ヲ歷叙シ政治ノ事項殆ンド網羅シテ遺ス所ナク政治域内ノ諸科ニ通曉スルニ於テハ則チ復之レニ若クモノナキ書ニシテ發刊以來大ニ世ノ好評ヲ博シ既ニ再版ヲモ賣盡シ暫ラク品切ノ處國會ノ開期既ニ迫リタルヲ以テ即今此書ヲ要望セラルヽモノ陸續斷エズ依テ今マ次ノ豫約法ヲ設ケ**五百部**ヲ限リ增刊セントス**帝國議會ノ初舞臺**ニ立テ大ニ政治ノ得失ヲ討議セントスル**候補者**ハ勿論苟モ**政治ノ事項**ヲ知ラント欲スルモノハ速ニ加盟アルベシ●此書紙數キク判四千九百ページ之ヲ總目錄共五卷ニ分チ脊革金字入クロス表紙ニ製本シ來ル六月中ニ出來スベシ●定價拾貳圓ニシテ豫約價次ノ如シ、本月中一時入金ノモノ八圓、本月中ニ半額五月中ニ半額入金ノモノ九圓、本月ヨリ六月マデ毎月貳圓五十錢宛入金ノモノ拾圓（但シ各地送本料ハ別ニ請求ス）

經濟雜誌社編輯

## 日本社會事彙

編輯主義 田口卯吉 川上廣樹

第三回（最終）豫約者募集廣告

此書ハ國初ヨリ明治ノ今日ニ至ルマデ、政治、制度、法律、理財、商業、工藝、風俗等、百般ノ沿革ヲ統記シ以テ政事家ノ腹笥ニ充テ併テ諸學術上ニ便益セントスルモノニシテ頭字ヲ五十音ニ分チ索引ニ便ナラシメ且圖畫ノ今日ニ存スルモノ大約之ヲ挿入スベシ其體裁見本ニ見ハスガ如シ（見本御入用ノ方ハ郵券貳錢御送付アルベシ）●紙數半紙形大約四千ページ之ヲ二卷ニ分チ脊革金字入クロス表紙ニ製本シ第一卷ヲ來ル七月中ニ發兌シ第二卷ヲ十一月中ニ發兌シテ完了スベシ●定價拾六圓ニシテ豫約價次ノ如シ、來ル四月中ニ一時入金ノモノ拾圓、四月中ニ半額十月中ニ半額ヲ入ルヽモノ拾貳圓、四月ヨリ九月マデ毎月貳圓宛十月ニ壹圓入金ノモノ拾三圓（但シ各地送本料ハ別ニ請求ス）●豫約申込ハ入金期日マデトス●大方ノ諸君贊成加盟アランヿヲ請フ

發行所

東京市京橋區彌左衛門町七番地

經濟雜誌社

大寶典出版豫約廣告

二大寶典

遞信省認可

# サマリタン會規則

第一條　本會ノ目的ハ信者未信者ニ拘ハラス貧窶ニシテ疾病ニ罹レルモノヲ救療シ且未信者ニハ福音ヲ傳ヘテ其靈魂ノ救ハレンコトヲ望ムニ在リ故ニ本會ニハ救療所若干ヲ設ク

第二條　信者未信者ノ別ナク毎月金拾錢以上若クハ一時金五圓以上ヲ寄附スル者ハ會員トシ又臨時ニ金五圓以下若クハ物品ヲ寄附スル者ハ賛成員トス而シテ會員ニハ患者ヲ救療所ニ紹介スルノ權アリ

但シ會員ニハ會員證ヲ贈附シ賛成員ニハ臨時ニ謝狀ヲ呈スルモノトス

第三條　役員ハ會長一名及救療所毎ニ理事委員治療委員各若干名トス

但シ役員ハ信者ニ限リ且ツ總テ無給トス

第四條　會員ハ便宜ニ依リ各救療所ニ區分シ其寄附金ノ取纏等ハ理事委員之ヲ處理ス

第五條　救療スヘキ患者員數ハ收入金高ニ應シテ豫定シ紹介ノ順序ニ隨テ救療ス其診察時間等ハ救療所ニ掲示スヘシ

但シ救療所ノ都合ニ依テハ看護婦ヲ置キ患者ヲ宿泊セシムルコトアルヘシ

第六條　救療所ニ於テハ六ケ月毎ニ其功程ヲ會員ニ報告スヘシ

第七條　本則第二條中會員ノ寄附金額ハ自今入會ノモノヽミニ適用ス

明治二十三年二月

〇救療所ヲ本郷區湯島切通坂町三十番地ニ設置候事

〇治療委員ノ姓名ハ近日別紙ヲ以テ廣告ス

〇會員タラントスル諸兄姉ハ御便宜ニヨリ左ノ人名ノ内ヘ御通知アレ

本郷區森川町壹番地大内方　遠藤鉄太郎
同切通坂町卅番地藥舗　林利知
下谷區徒士町三丁目六拾一番地　高田耕安
下谷一致敎會ニテ　森田豊


東洋英和女學校廣告欄

本校の學期は豫科三箇年本科四箇年にして別に二箇年に渉る高等科の設あり入學生は寄宿生百三十五名通學生百名を限とす毎科受持の敎員孰れも熟達善良あり然して本校の敎授は實に完全なりとの世評を獲んとは本校の希圖する所あり規則書等御入用の御方は校長宛に御照會を乞ふ

麻布區鳥居坂十四番地
東洋英和女學校

生徒募集

本校定期試驗畢る寄宿通學とも入學を許す

小石川柳町廿七番地
私立 跡見女學校

通信女學 講義錄 第三卷

三月十三日出版
價金三十二錢
全國一般無郵稅

東京麴町區富士見町二丁目一番地
女學雜誌社



發行所　東京麴町區富士見町二丁目一番地
女學雜誌社

編輯兼發行人　東京麴町區富士見町二丁目一番地寄留　巖本善治

印刷人　東京神田區三崎町壹丁目十三番地寄留　森田豊

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

# サマリタン會規則

第一條 本會ノ目的ハ信者未信者ニ拘ハラス貧窶ニシテ疾病ニ罹レルモノヲ救療シ且未信者ニハ福音ヲ傳ヘテ其靈魂ノ救ハレンコトヲ望ムニ在リ故ニ本會ニハ救療所若干ヲ設ク

第二條 信者未信者ノ別ナク毎月金拾錢以上若クハ一時金五圓以上ヲ寄附スル者ハ會員トシ又臨時ニ金五圓以下若クハ物品ヲ寄附スル者ハ贊成員トス而シテ會員ニハ患者ヲ救療所ニ紹介スルノ權アリ
但シ會員ニハ會員證ヲ贈附シ贊成員ニハ臨時ニ謝狀ヲ呈スルモノトス

第三條 役員ハ會長一名及救療所毎ニ理事委員治療委員各若干名トス
但シ役員ハ信者ニ限リ且ツ總テ無給トス

第四條 會員ハ便宜ニ依リ各救療所ニ區分シ其寄附金ノ取纏等ハ理事委員之ヲ處理ス

第五條 救療スヘキ患者員數ハ收入金高ニ應シテ豫定シ紹介ノ順序ニ隨テ救療ス其診察時間等ハ救療所ニ掲示スヘシ
但シ救療所ノ都合ニ依テハ看護婦ヲ置キ患者ヲ宿泊セシムルコトアルヘシ

第六條 救療所ニ於テハ六ケ月毎ニ其功程ヲ會員ニ報告スヘシ

第七條 本則第二條中會員ノ寄附金額ハ自今入會ノモノヽミニ適用ス

明治二十三年二月

〇救療所ヲ本郷區湯島切通坂町三十番地ニ設置候事
〇治療委員ノ姓名ハ近日別紙ヲ以テ廣告ス
〇會員タラントスル諸兄姉ハ御便宜ニヨリ左ノ人名ノ内ヘ御通知アレ

本郷區森川町壹番地大内方 遠藤鉄太郎
同切通坂町卅番地藥舖 林知利
下谷區徒士町三丁目六拾一番地 高田耕安
下谷一致教會ニテ 森田豊

東洋英和女學校廣告欄

本校の學期は豫科三箇年本科四箇年にして別に二箇年に渉る高等科の設あり入學生は寄宿生百三十五名通學生百名を限とす毎科受持の敎員孰れも熟達善良あり然して本校の敎授は實に完全なりとの世評を獲んとは本校の希圖する所あり規則書等御入用の御方は校長宛に御照會を乞ふ

麻布區鳥居坂十四番地
東洋英和女學校

生徒募集

本校定期試驗畢る寄宿通學とも入學を許す

小石川柳町廿七番地
私立 跡見女學校

通信女學 講義錄 第三卷

三月十三日出版
價金三十二錢
全國一般無郵稅

東京麹町區富士見町二丁目一番地 女學雜誌社

發行所 東京麹町區富士見町二丁目一番地 女學雜誌社

編輯兼發行人 東京麹町區富士見町二丁目一番地寄留 巖本善治

印刷人 東京神田區三崎町壹丁目十三番地寄留 森田豊